

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成 26 年度事業)

平成 27 年 9 月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
II	山元町教育委員会の活動の概要	1
1	教育基本方針	1
2	教育重点施策	2
(1)	学校教育の充実	2
(2)	社会教育の活動推進	3
(3)	地域文化の保護と活用	3
(4)	社会体育と生涯スポーツの振興	3
III	主な事業の点検評価項目	3
1	教育委員会の活動	3
2	教育関係経費決算の状況	8
3	学校教育の充実	10
(1)	山元町立山下第二小学校の再建に向けて	10
(2)	小学校及び中学校における教育活動等の評価について	10
(3)	学校給食の概要について	51
4	生涯学習の推進	51
(1)	生涯学習の充実	51
(2)	生涯スポーツの推進	58
(3)	魅力ある地域文化の醸成	60
(4)	社会教育・社会体育施設の活用	63
IV	点検評価に対する学識経験者の意見	65
V	参考法令	

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価の対象

平成 26 年度の山元町教育委員会が所管する事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、平成 26 年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、実施にあたっては、山元町教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を毎年山元町議会へ提出し、かつ公表するものとします。

II 山元町教育委員会の活動の概要

1 教育基本方針

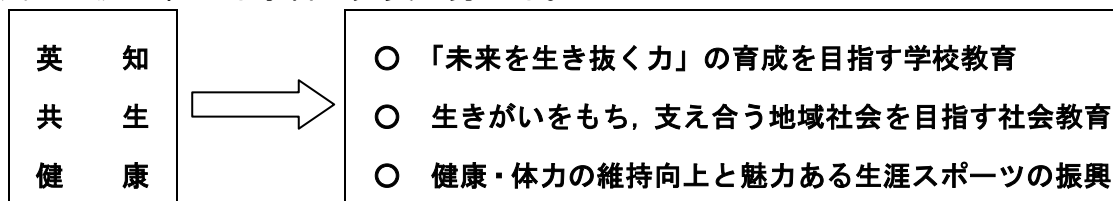
平成 26 年度における山元町の学校教育・社会教育の原点は、先の東日本大震災の被災状況にある。このことを踏まえて、現在進めている「山元町震災復興計画」（第 5 次山元町総合計画）に沿った課題解決を最優先に据えて、学校、家庭、地域、そして教育委員会の総力を挙げて積極的に取り組むこととする。

学校運営については、津波で被災した学校の併設解消に向けた具体的取組を加速させることが喫緊の課題となるが、未だ仮設住宅や区域外、他市町から通学する児童生徒が多数いることから、児童生徒や保護者の心理的・経済的な負担等にも配慮しながら教育活動を展開していくものとする。さらに、大震災の教訓として津波の記憶を風化させることなく、これらの経験からなすべきことを見つめ一歩前へ進めるため、より一層学校と地域との協働を推進する。

また、社会教育については、多様な生涯学習、文化、スポーツ・交流活動に対し積極的に支援するとともに、地域づくりの活動リーダーの育成を図る。

以上のような考えを基に、基本方針等は下記のとおりとする。

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成をめざすとともに町民の生涯にわたる学習の充実に努める。



を教育の基本方針とし、その具現化に努める。

2 教育重点施策

学校教育と社会教育が連携・協働して教育基盤の再構築を図り、町民一人一人が自己実現をめざし、健康で生きがいに満ちた生涯学習社会を実現するために、次の施策を行う。

(1) 学校教育の充実

- ① 未来を生き抜く力を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価
 - ・ 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長及び個性を伸ばす主体的・体験的学習の展開
 - ・ 震災経験を生かした志教育・心の教育・防災教育の推進
 - ・ 健康の保持増進のための基礎体力の向上及び食育の推進
 - ・ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実
 - ・ 町の自然、歴史、伝統文化等への理解を深めるためのふるさと教育の推進
 - ・ 情報化、国際化に対応した教育の推進
- ② 創意と活力に満ちた学校経営と信頼される教職員
 - ・ 児童生徒の夢や志の実現を目指す特色ある学校経営の推進
 - ・ 学校評価等を生かした、家庭・地域に開かれた学校づくりの推進
 - ・ 教職員としての使命と責任の自覚及び資質向上を目指した研修の充実
- ③ 学習環境の復旧・支援体制の強化
 - ・ 校舎、屋内運動場、プール等の施設・設備等の復旧と整備充実
 - ・ 地域防災の視点に立った危機管理体制の整備と安心・安全な学校づくりの推進
 - ・ 心のケアへのきめ細かな配慮及びいじめや不登校のない学校・学級づくり
 - ・ 主体的な進路選択の指導
 - ・ 児童生徒の健全育成に係わる関係機関との連携

(2) 社会教育の活動推進

歴史と伝統ある地域の特性を生かした町民の生涯にわたる学習を推進し、復興機運の醸成を図る。

- ・青少年の健全育成の推進
- ・社会教育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ・協働教育事業の充実と社会参加の奨励
- ・学習意欲の高揚と学習活動への支援
- ・コミュニティ意識の醸成と地域づくりへの支援

(3) 地域文化の保護と活用

かおり高い芸術文化とのふれあいと創造を図るため、歴史が培ってきた芸術文化を尊重し、併せて、文化財の保護と活用に努め、次世代への継承支援を図る。

- ・芸術文化活動への理解と啓発促進
- ・参加し創造する芸術文化活動の支援
- ・郷土の伝統文化の保護と後継者育成の支援
- ・文化財の保存と史跡の環境整備の促進
- ・復興事業等に伴う埋蔵文化財の発掘保存

(4) 社会体育と生涯スポーツの振興

町民の主体的スポーツ活動を支え、活力ある地域社会を目指し生涯スポーツの振興に努める。

- ・社会体育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ・町民総参加による生涯スポーツの振興
- ・社会体育関係団体の組織活動の活性化
- ・スポーツ指導者の育成と体制の整備

Ⅲ 主な事業の点検評価項目

1 教育委員会の活動

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した5人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。教育委員会には教育長が置かれ、教育委員会の指揮監督のもとにその事務を執行します。

教育委員会の会議は、毎月下旬に定例会を開催し（必要に応じて臨時会を開催します。）、各種議案の審議がなされるほか、教育長報告として各課の行事予定や実績報告等を行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

なお、この訪問の際には、教育委員が学校給食を実際に学級の中で児童生徒とともに食しながら意見交換の場を設けるなどして、指導・助言を行います。

(1) 教育委員会委員

職名	氏名	任期
委員長	大内悦夫	平成24年4月1日～平成28年3月31日
職務代行者	島田さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成29年9月30日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～平成30年9月30日
教育長	森 憲一	平成22年5月17日～平成28年9月30日
※ 類(前委員長)	高橋建夫	平成22年10月1日～平成26年9月30日

(2) 定例会の開催について

※主な審議事項を掲載

区分	期日	付議事件等
第1回定例会	平成26年4月25日	① 平成26年度臨時職員（教育委員会関係）の採用について ② 第3回文化財保護委員会の会議報告について ③ 第3回山元町社会教育委員の会議報告について ④ 山元町奨学金貸与選考委員の委嘱について ⑤ 平成26年度山元町奨学金貸与に係る奨学生の決定について
第2回定例会	平成26年5月26日	① 山元町障害児就学指導審議会委員の委嘱について ② 山元町立学校給食運営審議会委員の委嘱について ③ 山元町いじめ問題対策委員会委員の委嘱について ④ 山元町立学校評議員の委嘱について ⑤ 平成26年度6月補正について
第3回定例会	平成26年6月25日	① 第2回山元町議会定例会（抜粋）について ② 第1回山元町社会教育委員の会議報告について ③ 山元町招致外国青年就学規則について ④ 外国青年勤務成績評定要領について ⑤ 平成26年度亘理郡中学校総合体育大会結果について
第4回定例会	平成26年7月24日	① 第1回山元町文化財保護委員会の会議報告について ② 奨学金の償還事務の状況について ③ 平成27年度使用教科用図書採択承認について ④ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

		<p>の一部を改正する法律の概要について</p> <p>⑤ 山元町震災伝承検討委員会について（震災遺構アンケート結果等の状況）</p> <p>⑥ 文化財MAPについて</p> <p>⑦ 社会教育施設等の使用料について</p>
第5回定例会	平成26年8月25日	<p>① 山元町教育委員会に関する点検評価報告書について</p> <p>② 平成26年度9月補正について</p> <p>③ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の概要について</p>
第6回定例会	平成26年9月25日	<p>① 教育委員会委員の任命について</p> <p>② 平成26年第3回山元町議会定例会（抜粋）について</p> <p>③ 全国学力学習状況調査結果について</p> <p>④ ハラスメントの防止等に関する要綱について</p>
第7回定例会	平成26年10月28日	<p>① 第2回山元町社会教育委員の会議報告について</p> <p>② 山下第二小学校新築復旧計画説明会について</p>
第8回定例会	平成26年11月25日	<p>① 障害児就学指導審議会の会議報告について</p> <p>② 平成26年12月補正（案）について</p> <p>③ 第38回町民文化祭実施状況について</p>
第9回定例会	平成26年12月25日	<p>① 平成26年第4回山元町議会定例会（抜粋）について</p> <p>② 第3回社会教育委員の会議報告について</p> <p>③ 成人式について</p>
第10回定例会	平成27年1月26日	<p>① 山下第二小学校再建に伴う学区の取扱いについて</p>
第11回定例会	平成27年2月18日	<p>① 第2回山元町文化財保護委員会の会議報告について</p> <p>② 平成26年度定期監査の結果について</p> <p>③ 産建教育常任委員会への説明について</p> <p>④ 県費負担教職員の人事について</p> <p>⑤ 平成26年度3月補正予算（案）について</p> <p>⑥ 平成27年度 教育関係当初予算案に対する意見聴取について</p> <p>⑦ 平成27年度 山元町教育基本方針について</p> <p>⑧ 仙台地区教科用図書採択協議会規約の承認について</p> <p>⑨ 補助執行の協議について</p> <p>⑩ 小中学校卒業式及び入学式の日程について</p>

		⑪ 山元町いじめ防止基本方針について
第12回定例会	平成27年3月27日	① 平成27年第1回山元町議会定例会について ② 山元町いじめ問題対策委員会の会議報告について ③ 山元町立学校給食運営審議会の会議報告について ④ 平成26年度第4回山元町社会教育委員の会議報告について ⑤ 山元町教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例施行規則について ⑥ 山元町教育委員会教育長の営利企業等の従事制限の基準等に関する規則について ⑦ 山元町教育委員会会議規則の一部を改正する規則について ⑧ 山元町教育委員会会議傍聴人規則の一部を改正する規則について ⑨ 山元町教育委員会公告式規則の一部を改正する規則について ⑩ 山元町教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則について ⑪ 山元町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について ⑫ 山元町教育委員会処務規程の一部を改正する訓令について ⑬ 山元町教育委員会公印規程の一部を改正する訓令について ⑭ 山元町立学校の管理に関する規則の一部を改正する規則について ⑮ 山元町学校事務支援室運営規程について ⑯ 山元町いじめ問題対策委員会設置要綱の一部を改正する訓令について ⑰ 山元町立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について ⑱ 山元町スポーツ全国大会等出場賞賜金交付要綱の一部を改正する告示について ⑲ 山元町社会教育指導員の委嘱について ⑳ 山元町教育相談員の委嘱について

(3) 臨時会の開催について

第1回臨時会	平成26年10月1日	① 山元町教育委員会委員長選挙について ② 山元町教育委員会委員長職務代行者の指定について
--------	------------	--

第2回臨時会	平成27年3月19日	① 県費負担教職員の人事について ② 一般職員の人事について
--------	------------	-----------------------------------

(4) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
平成26年6月25日	山下小学校 山下第二小学校	・給食試食（山下第二小学校） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成26年7月24日	坂元公民館、茶室、 体育文化センター、 文化財発掘現場	・現場説明・意見交換等
平成26年9月25日	坂元中学校 山下中学校	・給食試食（坂元中学校） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成26年10月28日	深山山麓少年の森、中 央公民館、勤労青少年 ホーム、歴史民俗資料 館、ふるさと伝承館	・現場説明・意見交換等
平成27年1月26日	山下第一小学校 坂元小学校	・給食試食（山下第一小学校） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等

(5) 教育委員の研修会等への参加

期 日	研修会等名	会 場	備考
平成26年5月28日	仙台管内教育委員会協議会研修会	大郷町中央公民館	
平成26年8月28日	宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会県央圏域会議	宮城県自治会館	
平成26年10月30日	仙台管内教育委員会協議会教育委員研修会	亶理町悠里館	
平成26年11月21日	宮城県町村教育長会研修会	宮城県自治会館	
平成26年11月28日	宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会全体会議	宮城県図書館	
平成26年12月1日	仙台管内教育委員会協議会委員長部会研修会	亶理町中央公民館	
平成27年1月30日	市町村等教育委員会新任委員等実務研修会	ホテル白萩	
平成27年1月30日	宮城県市町村教育委員会協議会教育委員・教育長研修会	ホテル白萩	

毎月の教育委員会定例会は、当初予定した通り実施することができました。とりわけ平成26年度は、地教行法の一部改正（いわゆる教育委員会制度の改

正)による各種規則等の見直し及び一部改正作業を実施し、国・県の動向等を踏まえながら、必要な改正等を図ることができました。

さらに、今後の総合教育会議の開催、教育の振興に関する施策の大綱の策定等への準備も併せて推進することができました。

また、教育委員による各小中学校訪問も3回に分けて実施し、校長の学校経営方針、教育活動、生徒指導の現状、そして課題等について説明を受け、その後授業参観をし、さらに意見交換等を行うなどして、より望ましい方向性を確認することができました。

生涯学習施設・体育施設についても2回に分けて訪問し、現場での説明を受け、現況や運営等について意見交換等を行うことができました。

2 教育関係経費決算の状況

平成26年度決算額は、教育費4億769万7千円、前年度比49.3パーセントの減少でした。

主な減少理由としては、小学校費のうち、小学校復興推進費平成25年度決算において計上された坂元小学校体育館建築事業の皆減等によるものです。

なお、東日本大震災の影響による災害復旧費、文教施設決算額は3億104万円です。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成26年度		平成25年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	63,417	15.6	68,859	8.6	△ 5,442	△ 7.9
小学校費	84,169	20.6	444,826	55.3	△ 360,657	△ 81.1
中学校費	117,984	28.9	123,164	15.3	△ 5,180	△ 4.2
幼稚園費	9,338	2.3	9,026	1.1	312	3.5
社会教育費	123,596	30.3	145,930	18.2	△ 22,334	△ 15.3
保健体育費	9,193	2.3	12,102	1.5	△ 2,909	△ 24.0
教育費 計	407,697	100.0	803,907	100.0	△ 396,210	△ 49.3
文教施設災害復旧費	301,040		119,683		181,357	151.5
教育関係経費 合計	708,737		923,590		△ 214,853	△ 23.3

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成26年度		平成25年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	162,984	40.0	156,507	19.5	6,477	4.1
物件費	186,525	45.8	218,512	27.2	△ 31,987	△ 14.6

維持補修費	7,336	1.8	21,735	2.7	△ 14,399	△ 66.2
扶助費	27,847	6.8	29,369	3.6	△ 1,522	△ 5.2
補助費等	18,261	4.5	18,355	2.3	△ 94	△ 0.5
普通建設事業費	917	0.2	352,965	43.9	△ 352,048	△ 99.7
積立金	2,627	0.6	5,744	0.7	△ 3,117	△ 54.3
貸付金	1,200	0.3	720	0.1	480	66.7
教育費 計	407,697	100.0	803,907	100.0	△ 396,210	△ 49.3
文教施設災害復旧費	301,040		119,683		181,357	151.5
教育関係経費 合計	708,737		923,590		△ 214,853	△ 23.3

＊遠距離通学に伴う通学費補助

(単位：円)

学校名	【平成 23 年度】			【平成 24 年度】			【平成 25 年度】		
	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額
坂元小学校	3	3	39,525	1	1	49,105	2	2	114,606
中浜小学校	6	9	57,351	3	3	152,895	—	—	—
山下小学校	3	4	15,320	3	3	121,700	1	1	88,830
山下第一小学校	13	18	280,365	4	5	74,082	2	2	18,305
山下第二小学校	46	57	651,033	7	8	140,741	4	7	59,958
坂元中学校	14	15	342,719	5	5	209,122	3	3	52,211
山下中学校	41	42	910,796	13	15	483,716	6	6	239,203
合 計	126	148	2,297,109	36	40	1,231,361	18	21	573,113

学校名	【平成 26 年度】		
	世帯	人数	金額
坂元小学校	2	2	6,210
中浜小学校	—	—	—
山下小学校	0	0	0
山下第一小学校	1	1	11,760
山下第二小学校	4	9	35,693
坂元中学校	3	3	45,097
山下中学校	6	6	297,879
合 計	16	21	396,639

震災の影響により、町内の小・中学校に遠距離通学を行う児童生徒の保護者に対し、通学に要する費用の一部を補助しました。

また、震災により被災した児童生徒の保護者に対し、「就学援助制度」により、

学用品費や学校給食費の一部を助成しました。

年ごとに対象者数は減少していますが、児童生徒の学校に対する愛着を受け止め、さらに保護者負担の軽減を図る一助とすることができました。

3 学校教育の充実

(1) 山元町立山下第二小学校の再建に向けて

東日本大震災で被災し、山下小学校と併設を続けている山下第二小学校は、教育委員会が平成25年3月に策定した山元町小・中学校教育環境整備方針において、新山下駅周辺地区新市街地の一角に再建する考えを示しました。

このことから、町として正式に山下第二小学校の再建を進めるため、平成25年第4回議会定例会において、用地取得・造成及び建築設計に向けた予算を提案したところ、学校の再建場所の選定理由等についてのご質問等多数いただきましたが、最終的にはご可決いただき、山下第二小学校の再建が進められることになりました。

平成26年度は、再建に係る基本・実施設計が完了したところであり、平成28年度2学期からの再開に向け、平成27年度に着工する運びです。

なお、学校の再建場所については、平成25年8月末に開催した再建計画説明会、及び11月に開催した都市計画変更説明会における新山下駅周辺地区土地利用計画変更の中でお示ししてきたとおりですが、その場所を選定した理由は次のとおりです。

【教育的観点】

- ①児童の安全安心を最大限に優先するため、災害危険区域への再建は適当でないこと。
- ②新山下駅周辺地区新市街地は、被災された山下第二小学校の学区民の方々が生活再建を図られる地区であって、津波からの安全が確保された形で造成が進められること。
- ③旧山下駅西側等に現地再建された方々との連担を考えたとき、少しでも新市街地の北東部寄りとの配慮が必要であったこと。
- ④新市街地は、山下小学校学区の中に整備されることになるが、新たに整備される新市街地は、山下第二小学校の学区に限定する考えであること。

(2) 小学校及び中学校における教育活動等の評価について

学校教育目標、今日的課題及び山元町教育基本方針から設定した次の各項目及びその評価の観点に対して、学校教育法及び同法施行規則により実施している学校評価から得られたデータ等を基に4段階評価を実施しました。

- ①学校教育目標・・・〈知〉〈徳〉〈体〉
- ②学力向上・・・基礎学力の定着、活用する力の伸長、主体的・体験的学習の展開
- ③心の教育・・・心のケアを含む心の教育、志教育の推進
- ④体力・生活習慣・・・体力向上に向けた取組、基本的生活習慣の育成

- ⑤防 災・・・・・・・・地域防災の視点に立つ危機管理体制、大震災の経験を生かした防災教育
- ⑥いじめ不登校・・・・いじめ防止対策、不登校対策
- ⑦地域連携・・・・・・・・開かれた学校づくり、説明責任の状況
- ⑧資質向上・・・・・・・・現職教育、校内研究など
- ⑨特色ある教育活動・・各校独自の教育活動等

〈評価区分〉

A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である

－ 坂元小学校 －

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
① 学校教育目標	〈知〉 進んで学習する子ども	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞き，目的をもって学ぼうとする子どもの育成 ・自分で正しく判断し，行動しようとする子どもの育成 ・考えをまとめて，進んで発表しようとする子どもの育成 	○授業の中に自分の考えを相互に伝え合い，考えを比較・検討しながら全体解決を図っていく活動を意図的に設定したことにより，自分の考えを表現できる児童が増えてきた。
	〈徳〉 明るく思いやりのある子ども	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく心のこもった挨拶や礼儀作法を身に付けている子どもの育成 ・他人の思いを知り，互いに支え合う子どもの育成 ・自分を取り巻く「人」「もの」「こと」に感謝する子どもの育成 	○坂元小学校の伝統である明るく心のこもった挨拶をできる児童が多い。
	〈体〉 根気強くがんばる子ども	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動し，遊びのルールを守ろうとする子どもの育成 ・目的をもってやり通す気力と体力をもつ子どもの育成 ・協力して働く喜びを知る子どもの育成 	○運動に親しめる場の設定や内容などの条件整備を図ることで，進んで運動に取り組む児童が増えた。
② 学力向上	1 基礎学力の定着	A B <u>Ⓒ</u> D	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図る授業づくりと指導の工夫 	<p>〔 6年生：全国学力・学習状況調査 5年生：宮城県学力・学習状況調査 観点別学力到達度診断（CDT） 〕</p> <p>上記結果から</p> <p>▲・6年生の国語A（主として知識）の平均正答率は，宮城県 74.2%，本校は 64.4%で9.8ポイント下回っている。</p> <p>4領域の中では読むことの正答率が低い。(57.6%)</p> <p>・算数A（主として知識）の平均正答率</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				<p>は、宮城県 77.3%，本校は 68.1%で 9.2 ポイント下回っている。4 領域の中では図形の正答率が低い (62.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 年生の国語全体の平均正答率は、宮城県 63.8%，山元町 54.9%，本校は 54.7%で県より 9.1 ポイント下回り，町より 0.2 ポイント下回っている。 ・ 基礎の平均正答率は、宮城県 67.9%，山元町 58.2%，本校は 58%で県より 9.9 ポイント下回り，町より 0.2 ポイント下回っている。4 領域の中では書くことの正答率が低い。(33.9%) ・ 5 年生の算数全体の平均正答率は、宮城県 74.4%，山元町 64.7%，本校は 70.6%で県より 3.8 ポイント下回り，町より 5.9 ポイント上回っている。 ・ 基礎の平均正答率は、宮城県 76.2%，山元町 67.2%，本校は 72.2%で県より 4 ポイント下回り，町より 5 ポイント上回っている。4 領域の中では数量関係の正答率が低い。(62.5%) <p>【CDT結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年生の国語全体の平均正答率は、全国 87%，本校は 85%で 2 ポイント下回っている。 ・ 3 年生の国語全体の平均正答率は、全校 83%，本校は 82%で 1 ポイント下回っている。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導体制の工夫 ・ 書くことの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生の国語全体の平均正答率は、全国78%、本校は75%で3ポイント下回っている。 ・ 5年生の国語全体の平均正答率は、全国77%、本校77%と同じである。学校全体で見ると国語の平均正答率は、全国よりやや下回っている。 ・ 2年生の算数全体の平均正答率は、全国88%、本校は91%で3ポイント上回っている。 ・ 3年生の算数全体の平均正答率は、全校82%、本校は89%で7ポイント上回っている。 ・ 4年生の算数全体の平均正答率は、全国83%、本校は76%で7ポイント下回っている。 ・ 5年生の算数全体の平均正答率は、全国79%、本校は76%で3ポイント下回っている。 <p>学校全体で見ると算数の平均正答率は、全国と同じである。</p> <p>□低・中・高の各学年部に副担任を配置し、個に応じた指導のための複数教員による指導の工夫改善を行い、分かる授業づくりに努めていく。</p> <p>□授業で「書くこと」の活動を積極的に導入する。発達段階に応じた学びの過程が分かるようなノートづくりの指導、「書く</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣の確立に向けた指導の充実と家庭との連携 	<p>こと」の抵抗をなくす指導に努めていく。</p> <p>□ 6年間を見通した自主学習を柱とした家庭学習の手引きの内容を検討・提示するなど、一人一人の子どもたちの学習に対する意識を高め、家庭と連携して学習習慣の定着を図っていく。</p>
	2 活用する力の伸長	<p style="text-align: center;">A B C D</p> <hr style="width: 100%;"/>	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けた基礎・基本を活用する力の育成 <p>・指導計画の工夫</p>	<p>▲ ・ 6年生の国語B（主として活用）の平均正答率は、宮城県 54.3%，本校は 43.6%で 10.7 ポイント下回っている。4領域の中では書くことの正答率が低い。(21.2%)</p> <p>・ 算数B（主として活用）の平均正答率は、宮城県 56.8%，本校は 51.5%で 5.3 ポイント下回っている。4領域の中では数量関係の正答率が低い。(52.1%)</p> <p>・ 5年生の国語活用／思考・判断・表現の平均正答率は、宮城県 46%，山元町 40%，本校は 40.6%で県より 5.4 ポイント下回り，町より 0.6 ポイント上回っている。</p> <p>・ 算数活用／思考・判断・表現の平均正答率は、宮城県 67.5%，山元町 55%，本校は 64.3%で県より 3.2 ポイント下回り，町より 9.3 ポイント上回っている。</p> <p>□ 身に付けた基礎・基本の定着を一層確実にする学習活動を指導計画に位置付け</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			・繰り返し学習の充実	て、指導に当たっていく。 □重点的な指導や補充的な学習，反復指導などの繰り返しの学習の充実を図っていく。
	3 主体的・体験的学習の展開	A <u>○B</u> C D	・体験的，課題解決的な学習の設定と外部機関との連携	○次の学習や他の学習，生活の場で生きた知識として活用できることを実感できる機会を指導計画に位置付ける。外部関係機関や人材の専門性を生かした指導体制の工夫に努める。この2つのことが，主体的に学習に取り組む児童が増えたことにつながった。
③心の教育	1 心のケアを含む心の教育	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業を中心とした道徳教育の充実 ・学級づくりやたてわり活動を通した豊かな人間関係づくり ・全職員による情報の共有とスクールカウンセラー等の活用を図りながら，心のケアの継続 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を生かしたり教材を開発・活用することで，創意工夫ある指導ができた。 ○子どもたちの居場所がある楽しい学校，学級づくりに努めたことで，豊かな人間関係づくりができた。 ○子どもと過ごす時間の確保，何でも話し合える雰囲気づくりなど，児童に寄り添った指導により心のケアができた。
	2 志教育の推進	A B <u>○C</u> D	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等との関連を明確にした年間指導計画の整備 ・将来に対する夢や志を育てる日常的な指導の中での意識した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ▲計画（全体計画，学年の計画）はあるが計画的に指導されているか等指導後の反省（成果や課題）を行い自校化を図っていくことが必要である。 □教科，道徳，総合的な学習の時間，特別活動，学校行事等で志教育の重点指導事項との関わりを再確認し，積極的に推進していく。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
④ 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A <u>○B</u> C D	・体力・運動能力の向上に向けた教科体育や業間運動の充実	○教科体育を中心に業間の時間に行う持久走や縄跳び運動を実施したことで、体力向上が図られた。
	2 基本的な生活習慣の育成	A <u>○B</u> C D	・「はやね・はやおき・あさごはん」や食後の歯磨き、うがい手洗いの励行など基本的な生活習慣の形成	○家庭と連携し、健康に関する望ましい意志決定や適切な行動選択ができる能力を養ったことが、基本的な生活習慣の形成につながった。
⑤ 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B <u>○C</u> D	・行政、地域団体、PTA、家庭と連携した防災体制（一斉メール配信等）の充実 ・多様な状況設定に合わせた防災マニュアルの作成とその点検及び改善	▲行政や地域と一体となった危機管理体制の整備は十分図られていないのが現状である。 □坂元地区の区長会との連携を通し、情報の共有を図った上での防災体制の確立。行政、保護者や地域と連携しての防災訓練を実施する中で危機管理体制の整備を図っていく。 学校独自のマニュアルの作成と訓練の実践を通して学校内の危機管理体制の改善を図っていく。 学校のみならず地域と連携した防災教育の推進について、今後も継続して取り組んでいく。
	2 大地震の経験を生かした防災教育	A <u>○B</u> C D	・「自ら身を守り、乗り切る力」、「知識を備え、行動する力」育成のための防災授業の充実 ・避難訓練（地震・津波、火災等）の実施と防災ずきんの携行の徹底	○避難訓練等の防災教育の充実を図り、防災意識、安全行動の定着に向けて家庭との共通認識の下に子どもたちへの指導ができた。 ○防災ずきんの携行は100%。各種避難訓練へもしっかり取り組むことができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
⑥ いじめ 不登校	1 いじめ防止対策	A <u>ⓑ</u> C D	・積極的な生徒指導の充実による規範意識の醸成といじめ等の未然防止	○いじめは、誰にでも起こり得ることを常に意識しながら日々の指導に当たっている。坂元小学校いじめ防止対策基本方針に基づき、児童の実態把握と早期対応ができた。
	2 不登校対策	A <u>ⓑ</u> C D	・情報交換の場の設定，全職員による問題の共通理解を図った上での適切な対応	○子どもたちに関する情報や様子の変化などを共有するとともに，早期対応を大切にし，家庭や関係機関と連携を図った適切な対応ができた。
⑦ 地域 連携	1 開かれた学校づくり	A <u>ⓑ</u> C D	・職員室や校長室への自由来訪を通し，情報の共有や双方向からの発信を実施	○丁寧な説明と双方向からの情報発信を進めることで，保護者や地域との連携を密にすることができた。そのことがよりよい学校づくりにつながっている。
	2 説明責任の状況	<u>Ⓐ</u> B C D	・学校だより，学年だよりなどを通して，子どもたちの活動の取組の様子を積極的に保護者や地域に発信	○学校評価やアンケートの結果，それらの評価を踏まえた具体的な学校としての取組を知らせることが，学校・家庭・地域の連携・協力につながった。今後もきめ細かな情報発信に努めていく。
⑧ 資質 向上	1 現職教育	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善，指導力向上を目指す校内研究（算数科）の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・考えを表現するための言語活動 ・考えを伝え合い，高め合うための言語活動 ・校内研修として，学力向上サポートプログラム事業や心のケア研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習環境の整備，学力向上に向けた5つの提言の実践等を通して分かる授業づくりに努めてきた。 3年間の研究の成果の一端として，算数の学力が向上している（各種調査や診断の数値や児童の変容より）。 ○年間3回実施した学力サポートプログラム事業の研修は，授業改善につながり児童の学力向上にもつながった。夏休みに実施した心のケアの研修は，児童理解の

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				深まりに役立った。
	2 実践的指導力の向上	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題の解決や問題への対応を通して個々の指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育 安全教育 伝達講習 	<p>○通常の学級に在籍する支援を必要とする子どもの実態把握と支援方法の具体化について検討，支援体制づくりなど，全校体制での取組に一定の成果が見られた。</p> <p>○安全教育の充実と適切な安全管理に関する校内研修を実施することにより，教職員のスキルと意識を高めることができた。</p> <p>○校外での研修の伝達講習会等を確実に行うことにより，共に高め合い，学び続ける教員集団づくりの一助となった。</p>
⑨ 特色ある教育活動	1 体験活動を通じた地域とのふれあい	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携した体験活動（3・4年生坂元川探検），地域の人材と連携した体験活動（3年生りんごの学習，5年生いちごの学習）の推進 	<p>○地域素材の教材化とその活用に努めたことにより，地域に対する愛情が育まれ，発展に寄与しようとする心情と態度の育成につながった。</p>
	2 伝統芸能を継承し，たてわりで伝え合う仲間意識の育成	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統芸能（3年生坂元こどもおけさ，4年生こども神楽）の継承 運動会や鼓笛演奏，たてわり遊び，坂元こどもおけさやこども神楽の活動を通じた仲間意識の育成と仲間づくり 	<p>○地域の伝統行事や文化活動への積極的な参加など，地域の人々との関わりを大切にした取組ができた。</p> <p>○たてわり活動による異学年児童間の連帯感の強化と，高学年児童のリーダーシップ育成が図られた。</p>
	3 児童の安全を見守り，健全に育てるPTAや協力者との連携	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> こども見守り隊，子ども110番の家，PTAによる学区内安全点検等を実施することでの児童の安全・安心の確保 	<p>○地域やPTAとの連携を図る中で「生活安全」，「交通安全」，「災害安全」の3領域において安全・安心の確保ができた。</p>
	4 全校児童で取り組む辞書引き学習	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 辞書引き学習を通して，国語力の向上と自ら学ぶ力・態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> 毎週木曜日の「朝の活動」に位置付 	<p>○26年度から新たに取り組んだ全校（低学年は2学期から）での取組。校内研究と関連させ，「日常的な取組（授業や家庭</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			けての全校児童での取組 ・授業や家庭学習への活用	学習)」や「朝の活動」に活用を位置付け、 継続して取り組んできた。自分が気になる 言葉を自主的に調べようとする意欲が 付いた。言葉への関心が高まっただけで なく、文章表現力も高まった。

－ 山下小学校 －

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
①学校教育目標	〈知〉 しっかり勉強する子ども	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 指導形態や指導法の工夫 スキル学習の計画的な取り組み 学年に応じた家庭学習の励行 	○小集団での学習の定着が図られた。 ▲家庭学習への取り組みが多少不足していた。 ▲学年による取り組みの差がみられた。 □教頭、教務による授業支援を実践する。
	〈徳〉 やりとおす子ども まごころのある子ども	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 児童によるあいさつ運動の実施 縦割り活動を通した心の教育 ほめ、叱る教育の推進 	○児童の自主的な取り組みによる挨拶が みられた。 ○縦割り活動の定着が図られた。 ▲校外でも挨拶ができるように指導する 必要がある。 □学習活動における地域人材との交流 の機会を設定する。
	〈体〉 たくましい子ども	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業・体育的行事・外遊び等での 運動量の確保 体力向上カードの年間を通した活用 縄跳びなど体力向上のための取り組みの 日常化 	○持久走大会に向け集中した取り組みを行 った。 ○積極的に外遊びをする児童が増加し した。 ▲運動を日常化するための更なる働き かけがたりなかった。 □縦割り外遊びを計画的に実施する。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
② 学力向上	1 基礎学力の定着	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・スキル学習など繰り返し学習の計画的な実施 ・家庭学習の推奨と保護者への呼びかけ ・国語辞書の日常的活用の推進 	<p>○スキル学習の時間の確保によって理解度が向上した。</p> <p>▲家庭での学習時間の向上が不足していた。</p> <p>▲スキル学習の時間の更なる確保が必要である。</p> <p>□家庭学習の手引の作成・啓発を行う。</p>
	2 活用する力の伸長	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な時間の指導を通じた活用力の育成 ・ノート指導を通じた、既習事項を活用する能力の育成 ・発展問題への取り組み 	<p>○総合学習を通じた発信など、活用力の向上が見られた。</p> <p>▲丁寧で活用しやすいノート作成力の向上が不足していた。</p> <p>▲児童の実態に即した指導計画の作成が必要である。</p> <p>□指導改善と指導力の向上のため、研修・研究を充実させる。</p>
	3 主体的・体験的学習の展開	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団学習を活用した主体的な学習 ・地域の環境を生かした体験学習の実施 ・ICTの活用による授業づくり 	<p>○小集団学習を通じた発言意欲の向上が見られた。</p> <p>▲体験学習による児童の意欲の向上がもう一步であった。</p> <p>□体験学習の時間の確保を積極的に行う。</p> <p>□授業内容の工夫改善による主体的学びを計画的に行う。</p> <p>□生涯学習課との連携による地域人材の活用を積極的に行う。</p>
③ 心の教育	1 心のケアを含む心の教育	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の一層の充実 ・スクールカウンセラーの活用 ・必要に応じたケース会議の開催 	<p>○ケース会議による適切で迅速な対応を実現させた。</p> <p>○スクールカウンセラーの活用による児童</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				<p>の精神面のケアを実現させた。</p> <p>▲保護者へのスクールカウンセラーの活用の周知が不足していた。</p> <p>□カウンセラー便りの配付を行う。</p>
	2 志教育の推進	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の作成と加筆 実践事例の蓄積と紹介 志教育研修会への積極的な参加 	<p>○指導計画を活用し指導の充実を図ることができた。</p> <p>○指導者の意識の改善が見られた。</p> <p>▲地域に即した実践の集積を重ねる必要がある。</p> <p>□「未来への架け橋」の活用促進を図る。</p>
④ 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 体育学習での運動量の確保 体力向上カードの活用など、体力向上のための日常的な取り組みの推進 外遊びの奨励 	<p>○外で活動する児童が増加した。</p> <p>○カードを通じた活動意欲の向上がみられた。</p> <p>▲体力向上の数値的な把握がたりなかった。</p> <p>□みやぎっ子！元気アップエクササイズの活用を促進する。</p>
	2 基本的生活習慣の育成	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた生活目標の設定 各学年の実態に応じた指導計画の策定と指導の実施 全校児童に対する定期的な指導の実施 	<p>○朝会等での適切な生活目標の提示が効果的だった。</p> <p>○生活目標の適切な提示により意欲的な取り組みがみられた。</p> <p>▲月ごとの目標だけでなく、継続した取り組みが必要である。</p> <p>▲全職員で共通理解し、指導の強化を図る必要がある。</p> <p>□生活目標を見直し、全面的に改訂を行う。</p> <p>□生活朝会の新設により、指導の充実を図る。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
⑤ 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・山下二小と連携した危機管理マニュアルの改善 ・災害時を想定した訓練の実施 ・引き渡し訓練等を通じた保護者への啓発 	<p>○マニュアルの整備と共通理解の徹底を図ることができた。</p> <p>○集団下校訓練や引き渡し訓練等を実施した。</p> <p>▲地域と連携した体制の整備が不足していた。</p> <p>▲地域合同防災訓練へ参加し、非常時に備える必要がある。</p> <p>□津波想定訓練を計画し、ふじ幼稚園と共同で実施する。</p>
	2 大地震の経験を生かした防災教育	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・山下二小との共同防災訓練の実施 ・安全集会等を通じた防災意欲の育成 ・防災副読本を活用した防災教育への取り組み 	<p>○共同防災訓練を通して非常時に備えるための共通理解を徹底させた。</p> <p>▲防災教育を更に充実させるための意識が少なかった。</p> <p>□総合的な学習の時間の中に防災教育を位置付ける。</p>
⑥ い じ め 不 登 校	1 いじめ防止対策	<u>○A</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ実態調査の毎月の実施 ・実態調査を通じた早期の発見と対応 ・いじめに関する情報の共有化 	<p>○定期的な調査による実態把握を実施できた。</p> <p>○情報の共有による取り組みを徹底させた。</p> <p>▲調査の蓄積により更に深い児童の実態の把握が必要である。</p> <p>□実態調査の活用法を工夫する。</p> <p>□職員会議等でいじめに関する実態を共通理解する。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	2 不登校対策	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・児童実態の情報の共有 ・ケース会議の開催を通じた早期対応 ・定期的な調査による実態の把握 	<p>○情報の共有による取り組みの徹底を図った。</p> <p>▲更なる迅速な取り組みが不足していた。</p> <p>□職員会議，打合せ等での共通理解とミニケース会議を実施することも必要である。</p>
⑦ 地域連携	1 開かれた学校づくり	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観やみやまフェスティバルなど学校行事等の地域の方々への公開 ・学校だよりの地域への回覧 ・メール配信や，ホームページによる情報の提供 	<p>○お便りやメールでの迅速な情報提供を行った。</p> <p>○ホームページを更新した。</p> <p>▲メール配信登録率を上げるための働きかけが不十分であった。</p> <p>□PTA総会などで，更なる声掛けを行うことが大切である。</p>
	2 説明責任の状況	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針や学校評価の公表 ・サポート委員会での学校経営の状況の説明 ・学校だよりの地域への回覧 	<p>○情報公開による地域からの理解の深まりと支援の増加を図った。</p> <p>▲更なる情報の発信が少なかった。</p> <p>□定例サポート委員会での更なる詳しい説明を行うことも必要である。</p>
⑧ 資質向上	1 現職教育	<u>Ⓐ</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内共同研究の推進 ・実技研修の実施 ・外部講師の活用 	<p>○共同研究による職員の資質の向上を図った。</p> <p>○同時に，職員の意欲の向上も図ることができた。</p> <p>▲事前検討や準備の時間の確保が不足していた。</p> <p>□模擬授業を導入し，事前検討会を具体的に行い，合理化を図ることが大切である。</p> <p>□教職員の希望や社会の要請に応じた実技研修を計画することも必要である</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	2 外部研修	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会等への積極的な参加 ・研修内容を共有化するための伝講会の実施 ・職能に応じた研修会への積極的な参加 	<p>○外部研修による資質の向上を図った。</p> <p>○伝講会による情報の共有化を行った。</p> <p>▲研修に行く時期のバランスよい調整が不足していた。</p> <p>□研究会への参加を年間を通してバランス良く計画すること。</p> <p>□長期休暇時以外にも職員会議内などで伝講することが大切である。</p>
⑨ 特色ある 教育活動	1 指導形態の工夫	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭・教務による専科授業の実施 ・グループ学習やペア学習など小集団学習の活用 ・取り出し指導など個に応じた児童の推進 	<p>○授業支援者（教頭・教務）による事前準備の充実を図った。</p> <p>○TT指導による個別対応を実現した。</p> <p>▲TTと少人数指導のバランスが不足していた。</p> <p>□年間の指導計画や単元を見通して、計画的に少人数指導、TT等の指導形態や指導方法の工夫が必要である。</p>
	2 縦割り活動	<u>Ⓐ</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した縦割りグループによる異学年児童との活動 ・活動を通した高学年児童の育成 ・縦割り遊びを通した心の教育 	<p>○学級を超えた児童の活動意欲の向上を図った。</p> <p>○児童同士の交流による思いやりの心の成長が図られた。</p> <p>▲事前準備の時間の確保が少なかった。</p> <p>□授業時間内の「みやまタイム」（児童会活動）の計画のほか、業間時間の「サンタイム」も事前に計画することが必要である。</p>
	3 地域素材や人材の活用	<u>Ⓐ</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業を通した学習支援ボランティアの活用 ・総合的な学習の時間での素材の開発 	<p>○学習支援ボランティアの補助による安全な活動を実現することができた。</p> <p>▲素材の更なる開発が不足していた。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				<input type="checkbox"/> 生涯学習課との定期的な情報や更なる連携をとることが必要である。 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間の年間指導計画を全面的に改訂する必要がある。

－ 山下第一小学校 －

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
① 学校教育目標	〈知〉 ・自ら課題を発見し、多様な見方・考え方で追究する子ども ・自己の思いや考えを豊かに表現できる子ども	A <u>ⓑ</u> C D	・思考力、判断力、表現力を育む言語活動を充実させる。 ・防災・復興教育の充実を図る。	○経験したことや自分で考えたことを順序立てて話せるようになった。 ○友達の意見を聞いたり自分の意見を言ったりして話し合いを進めることができるようになった。
	〈徳〉 ・思いやりの心を持ち、お互いに助け合える子ども ・進んで働き、自分や友達を大切にしている子ども	A <u>ⓑ</u> C D	・基本的な生活習慣（聴く、話す、挨拶する。）の定着を図る。 ・縦割りによる異学年との交流活動を充実させる。	○登校、下校の時に地域の方々に挨拶ができた。 ○高学年が低学年のことを考え行動することができた。 ○困っている友だちに対し助けてあげる思いやりが広がった。
	〈体〉 ・明るく健康で、進んで心身を鍛える子ども ・めあてにむかって粘り強く頑張る子ども	A <u>ⓑ</u> C D	・健康教育の充実（早寝、早起き、朝ごはん、歯みがき、食育）を図る。 ・運動カードの活用と指導法の工夫改善をする。 ・外遊びを奨励する。	○毎週水曜日に自己健康観察でチェックすることにより児童に意識させることができた。 ○運動カードを活用することで目的を持って取り組むことができた。 ○全校で楽しく遊ぶことができた。
② 学力向上	1 基礎学力の定着	A <u>ⓑ</u> C D	・算数の既習事項を定着させるために朝のスキルタイムを設定する。 ・本に親しませるために朝の読書を定着させる。	○復習することにより苦手な学習内容の理解・定着を図ることができた。 ○目標の50冊読破のため集中して本を読むようになる。

No.	項 目	評 価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			<ul style="list-style-type: none"> ・月一回程度のボランティアの読み聞かせを実施する。 ・個別指導を充実させるため3年生以上にTTを取り入れる。 ・一部教科担任制を実施する。 ・英語活動を1年生から実施する。 ・家庭学習の手引きを作成・配付し、家庭学習を定着させる。 ・授業で学習の理解状況や定着の様子把握するため学習感想を書かせる。 ・個に応じた指導を工夫する。 ・文章で表現力を身につけさせるため朝自習で作文を書かせる時間を設定する。 ・思考力や表現力を高められるような宿題を工夫する。 ・長期休業を活用し「さくらタイム」を実施する。 	<p>○読んでいただく物語に興味を持ち本をたくさん読むようになった。</p> <p>○つまずいている児童にきめ細やかに寄り添って指導することで理解させることができた。</p> <p>○書写を専門的に指導することにより意欲的に取り組めた。</p> <p>○低学年から簡単な英語活動を取り組むことにより親しむことができた。</p> <p>○家庭での自主勉強のやり方がわかり、スムーズにできるようになった。</p> <p>▲振り返り文や中心発問についてコメントを書かせるようにしている。</p> <p>▲学習内容の理解・定着に個人差が見られる。</p> <p>□TT や授業以外の時間も活用し、個別指導にあたる。</p> <p>▲200字程度の条件付き作文を書くようにさせたが十分書ける児童は少なかった。</p> <p>□毎週水曜日の朝に作文を書く時間を確保し継続して取り組む。</p> <p>▲物語や説明文の課題を出すようにしたが考える力が十分でない。</p> <p>□毎週続けて課題に取り組ませる。</p> <p>○夏休みや冬休みに約1時間、希望する児童の学習支援を行うことできめ細かに指導できた。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	2 活用する力の伸長	A B <u>C</u> D	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を教室内に掲示することで学習内容を活用する環境を作る。 既習事項を活用させるため学習カードを工夫する。 総合的学習の時間等で学校内や保護者の前で学習したことを発表する。 標準学力調査を実施し、児童の実態を把握する。 	<p>○既習事項を振り返り、思い出しながら本時の学習に取り組めた。</p> <p>○ヒントカード等を利用することにより答えをだすことができた。</p> <p>▲個人差が出る。</p> <p>□個の理解度に応じた具体物やカード等を工夫する。</p> <p>○インターネットや図書館で調べ、分かったことをまとめ、相手に分かりやすく発表することができた。</p> <p>▲学力状況を分析し、応用問題等に取り組みさせたが十分力が身に付いていない。</p> <p>□継続して、応用問題等に取り組みさせる。</p>
	3 主体的・体験的学習の展開	A <u>B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的学習・体験学習に取り組ませる。 	<p>○課題に対して主体的に取り組んだり、校外学習で体験したりすることで学習内容を実感しながら理解することができた。</p>
③心の教育	1 心のケアを含む心の教育	A <u>B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育のねらいをしぼり、全体態勢で取り組む。 縦割り活動（業間遊び、清掃、カレンダー作り、遠足）を実施する カウンセラーや総合教育センターとの連携を密にする。 	<p>○低学年に対する思いやりが育った。</p> <p>▲相手や場に応じた言葉遣いが十分身に付いていない。</p> <p>□次年度の道徳教育重点目標にいかれ取り組む。</p> <p>○地域に手作りカレンダーを配付することにより一人暮らしの方へ対する思いやりが育った。</p> <p>○気になる児童の教育相談をし、対応について学ぶことができた。</p>
	2 志教育の推進	<u>A</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> 志教育全体計画を作成することで各教科へのリンクを確認する。 	<p>○各教育活動における取り組みにより重点目標に近づいている。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会へ参加し、報告する。 ・総合的な学習の時間に、志教育を取り入れていく。 ・外部講師（矢野先生心のプロジェクト）を招く。 	<p>○公開研究会の報告で情報を共有し、取り組む方法が分かった。</p> <p>○校内研究の「山元町の復興」を通して各自、今後の思いを持つことができた。</p> <p>○書を通して今後の自分について志を高く持つことができた。</p>
④ 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの活用（水泳、持久走、縄跳び）を図る。 ・一単位時間の体育授業を充実させる。 ・web 長なわ跳びを行う。 	<p>○カードを活用することにより、目標を持って取り組みことができた。</p> <p>○宮城元気アップ体操の使用により楽しく準備運動や補強運動を行うことができた。</p> <p>○長なわ跳びを楽しく取り組めた。</p> <p>▲回数が伸び悩んでいる。</p> <p>□授業に取り入れ練習する。</p>
	2 基本的な生活習慣の育成	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して挨拶指導を継続する。 ・早寝、早起き、朝ご飯を推進する。 ・食育の授業を充実させる。 ・ノーチャイムで5分前行動を意識させる。 	<p>○児童同士や地域の方々への挨拶が良くなった。</p> <p>▲進んで挨拶することが不十分である。</p> <p>□元よく挨拶ができるよう指導を継続する。</p> <p>○実行することで体調の良さについて気付くことができた。</p> <p>○自分で時計を見ながら行動することができた。</p>
⑤ 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・区長、民生児童委員の方との連携を密にする。 	<p>○話し合いの場をとることによって情報交換や地域の現状について再確認することができた。</p>
	2 大地震の経験を生かした防災教育	<u>Ⓐ</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究での防災教育を進める。 	<p>○訓練の時、避難経路や指示などをよく聞き自分で考え行動することができるよう</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			<ul style="list-style-type: none"> ・不審者，引き取り訓練などを実施する。 ・毎月児童の防犯ブザー点検をする。 	<p>になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不審者が出た場合すぐ学校や警察に報告するという意識を高めることができた。 ○点検をすることにより使用可能，不可能を確認し 100%使える状態にして備えている。
⑥ いじめ不登校	1 いじめ防止対策	<u>○A</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを語る会（生徒指導会議）を定期的にする。 ・Q-U テストを年2回することで学級内の人間関係を把握する。 ・いじめ調査を実施し，きめ細やかに対応する。 ・学校いじめ防止基本方針を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気になる児童の共通理解を図ることができた。 ○学級内での交友関係の変化を知り，対応することができた。 ○児童一人一人がどのようなことを考えているのか把握し，指導に生かすことができた。 ○作成した組織を確認することができた。
	2 不登校対策	<u>○A</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーと面談し情報を共有する。 ・Q-U（学級満足度テスト）のアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気になる児童に関してカウンセラーからの情報を得ることができた。 ○分析結果をカウンセラーに報告しアドバイスを得ることができた。
⑦ 地域連携	1 開かれた学校づくり	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・一日授業参観，祖父母参観，学年 PTA 行事，お祭り集会を実施する。 ・区長との懇談会や民生児童委員等関係機関との連携を密にする。 ・放課後児童クラブ，スポーツ少年団との連携をする。 ・中学校，幼稚園，保育所との情報交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の成長を知っていただくため参観の機会を多くした。 ○学校外での児童の様子を詳しく聞くことができた。 ○活動室や体育館の活用ができた。 ○連絡の機会を設定することにより児童について細かく引き継ぐことができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	2 説明責任の状況	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の結果を公表する。 HP 公開や学校便りで情報を広く提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価と児童アンケート等を取りまとめて公表することができた。 ○学校の様子や児童の生活の様子などを広く知らせることができた。
⑧ 資質向上	1 現職教育	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上改善プランを進める。 宮城教育大学と連携した専門研究を実施する。 外部講師を招いての研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上のため家庭学習の手引きなどを作成する。 ○児童理解と心のケアについて学ぶことができた。 ○専門家による合唱指導で指導方法が分かった。
⑨ 特色ある教育活動	1 安全で美しい環境作り	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 農園での勤労体験、掲示教育や美化活動をする。 地域のボランティアより農園整備や環境美化を推進する。 ボランティアによる校内の掲示物作成をする。 学習資料等の整理保管を実施する。 緊急時に即応できるような掲示の工夫をする。 避難所機能体制の確認と整備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアの支援により農園経営や環境美化を充実させることができた。 ○季節にあった花壇経営や環境作り掲示物の工夫を行うことができた。 ○資料室の本棚設置により整理整頓ができた。 ○災害時の掲示物の準備ができた。 ○備蓄庫の管理を定期的にできた。
	2 PTA との連携	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 緊急メール配信の有効性を周知させ全戸加入に向けて働きかける。 PTA 活動を活性化、充実させ連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全戸加入により必要に応じてメールで知らせることができた。 ○リサイクル、バザー、美化活動を行い多くの保護者から協力を得られた。

－ 山下第二小学校 －

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
①学校教育目標	〈知〉 学び合う子ども	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を目指す「分かる授業」の創造 ・思考力、判断力、表現力の向上につながる学習活動の工夫 ・TT指導の積極的推進 ・「書く活動の推進」と「作文発表会の実施」 ・家庭学習の推進「家庭学習のすすめ」配布 ・学ぶ意欲を刺激する言語環境，掲示物の整備充実 	<p>○作文発表会では，暗記による発表を奨励し，話す力が育ってきている。</p> <p>○算数の学習パターンを統一することで，どの学年でも見通しをもって学習に取り組めるようになった。</p> <p>▲家庭学習の取組みと成果に個人差が見られる。(毎日 40.6% 平日 10~120分 27.3 調査)</p> <p>□「家庭学習のすすめ」については，4月のPTA総会で保護者に知らせ，協力をお願いした。</p>
	〈徳〉 やり通す子ども	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほめる」を基本とした言葉掛けによるやる気の醸成 ・努力した児童を全体で認める場の設定 ・自己目標の設定と実現への支援 ・成功体験の積み重ね 	<p>○「ほめる」場面を増やすことで，何事にもやる気をもって取り組む児童が増えた。</p> <p>▲忍耐力が低く，すぐに投げ出してしまう児童が見られるので，継続的に励ましながら指導することが必要である。</p> <p>□加配教員を活用した複数体制で指導し，多くの声掛けによりやる気の継続と，成功体験を重ねられるよう指導体制を整える。</p>
	〈体〉 にこやかな子ども	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの励行 ・「はやね・はやおき・朝ごはん」運動の推進 ・異年齢集団の良さを生かしたたてわり活動の推進 ・地元伝統行事や伝統芸能への積極的な関 	<p>○たてわり活動では，高学年が下学年を思いやる行動がたくさん見られた。</p> <p>○地元で伝わる民謡を覚えるなど故郷を愛するきっかけを作ることができた。</p> <p>▲家庭環境が整わず朝食を食べない，あまり食べない児童が見られる。(2名 1.8%)</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			わり	27.3 調査) □おたよりやPTA役員回答で食事の大切さを啓発していく。
②学力向上	1 基礎学力の定着	A <u>(B)</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 業前時間における計算，漢字練習への取り組み 「山ニスタンダード（学習規律）」の徹底 TT 指導（算数，理科，体育）による授業の充実 週末プリントの実施 算数の授業の進め方の全校統一 	<p>○学習習慣の定着が学力向上につながると考え，「山ニスタンダード」を活用し，どの学年でも同じ約束をしていることで，新年度のスタートがスムーズに行える。</p> <p>○加配を生かしたTT指導を実施し，複数体制で授業を行っているので，個への細かい配慮ができる。</p> <p>○毎週末学習プリントを課題とし継続して取り組んでいることで，漢字の書き取りの力が伸びている。</p> <p>▲家庭学習など学習習慣が十分に身につけていない児童がいるので，さらに家庭と協力していく必要がある。</p> <p>□職員研修を行い，指導方法の確認，学力の課題等を克服できるようにする。</p>
	2 活用する力の伸長	A <u>(B)</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 授業の指導過程の工夫と発展問題等への挑戦 「金曜プリント（家庭学習）」での国語読解問題への取り組みと採点，コメント 	<p>○週末プリント（金曜プリント）の継続的課題により，国語の読む力，書く力が育ってきている。</p> <p>▲学力状況調査では，活用する力が全国平均より低いので，活用する力を育てる指導が必要である。</p> <p>□単位時間の中に考える時間を設定するとともに，応用問題への取り組みを行う。</p>
	3 主体的・体験的学習の展開	<u>(A)</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> 算数科における体験的学習の重視 宿泊学習における自然体験的学習の充実 	○3年生の算数科では，校庭を活用したダイナミックな活動を行うことで算数の興

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統を取り入れた学習 ・総合的な学習の時間を活用した「山二小輪太鼓」への取り組み 	<p>味を高めることができた。</p> <p>○地域の民謡を習う学習には非常に意欲的に取り組み、故郷を愛する心が育っている。</p> <p>○自分たちが始めた地域復興に向けての太鼓の演奏は、非常に意欲的である。</p>
③心の教育	1 心のケアを含む心の教育	<p><u>○A B C D</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加配教員による複数体制による学級経営とTT授業の実施 ・スクールカウンセラーによる全校カウンセリングの実施 	<p>○学校生活の様子が心配される児童には、複数体制により素早く対応することができた。</p> <p>○全員カウンセリングにより、一人一人の家庭の様子や気持ちなどを知ることができた。</p> <p>▲復興住宅への引っ越しなど住環境の変化があり家庭と連絡を密にしていく必要がある。</p> <p>□住環境の確認と変化に伴う児童の変化を感じ取り、保護者との協力を得ながら迅速に対応する体制を組織として整える。</p>
	2 志教育の推進	<p><u>○A B C D</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのかかわりを大切にして将来の夢や希望に向かっていこうとする児童の育成 ・外部人材の積極的な活用 ・ジュニアリーダーの活用 ・プロスポーツ選手の招待 	<p>○地域の伝統芸能である「笠浜甚句、花釜音頭」などを地元講師を依頼して習得し、学習発表会で披露し、地元を愛する心を育てることができた。</p> <p>○外部団体の講師を積極的に依頼し、将来への夢の実現へ向けて見通しをもつことができた。</p> <p>▲6年間を見通した指導計画を作成することが必要である。</p> <p>□今年度の実績を記録し、年間指導計画の</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				見直しと改善を図るとともに、平成 27 年度の計画に位置付けるようにする。
④ 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上委員会の設置 ・教師自ら率先して運動に取り組む ・「はやね・はやおき・あさごはん」を基礎とした基本的生活習慣の保護者への啓発 	<p>○外でボール遊びをする児童が多い。</p> <p>▲「年々体力が落ちている」実態を踏まえ、外遊びを推奨しているが、十分にできていない。</p> <p>□「おひさまタイム」の実施を進め、外遊びを教師が率先して行うようにする。</p>
	2 基本的生活習慣の育成	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会における保護者への啓発 ・保健だよりによる、望ましい生活習慣の啓発 	<p>○出席率の高いPTA総会で保護者に直接啓発することで意識が高まった。</p> <p>▲復興に伴い住環境が変わり、生活習慣の乱れが感じられる。</p> <p>□学校での生活の様子を把握するとともに、保護者の協力が必要なので、学級懇談、学校だより等で継続的に啓発をする。</p>
⑤ 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた防災学習・指導の実施 	<p>○一斉メール配信は効果的に活用できている。(登録保護者 100%)</p> <p>▲年間指導計画の実践を進めていくことが必要である。</p> <p>□併設校である山下小学校との連絡調整を確認するとともに、年間指導計画の実践と、新校舎における危機管理体制について構想を練る。</p>
	2 大地震の経験を生かした防災教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急配信メールを活用した一斉引き渡し訓練 ・防災読本「未来へのきずな」の活用 	<p>○緊急メールを活用し、緊急時の引き渡し訓練を滞りなく実施することができた。</p> <p>▲津波の経験を想起させないような防災教育の内容を考える必要がある。</p> <p>□防災読本を活用した防災教育の実践を行</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				う。県発行「指導の手引」を活用する。
⑥ いじめ不登校	1 いじめ防止対策	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活アンケート」の実施と考察 ・「Q-Uテスト」の実施と考察 ・毎月の職員会議での各学年の情報交換 ・連絡系統を徹底させ、生徒指導主任、管理職への報告を確実にさせる。 ・問題行動が起きそうな時、起きた時は、ケース会議を開き、担任を含め全校での対応を決め、全員で共通行動をとるようにする。 ・危機管理の「さしすせそ」の徹底 ・全校カウンセリングの実施 	<p>○アンケート等の実施による実態把握により、気になる児童には、担任による観察、アプローチを行うことができた。</p> <p>○連絡体制が確立しているため、早めの対策を講じることができている。</p> <p>○カウンセラーの活用によって、教師では把握しにくい交友関係や悩みを知ることができ、学級経営、生徒指導に役立てることができた。</p> <p>▲いじめ防止に関する研修会を実施するなど、いじめを生まない学校、学級づくりを心掛けるようにする。</p> <p>□外部講師による研修会を実施し、教職員の意識と指導力を高める。</p>
	2 不登校対策	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しぶりが見られる場合の対応体制の整備 ・3日以上事由が明確でない欠席が続く場合は、直ちに家庭訪問、場合によっては、ケース会議を開催し、対応を図る。 ・全校カウンセリングの実施 	<p>○気になる児童には即時に対応ができている。(不登校0名)</p> <p>▲不登校を生まない学校、学級づくりを行うようにする。</p> <p>□外部講師による「登校支援ネットワーク研修」の実施</p>
⑦ 地域連携	1 開かれた学校づくり	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回の学習参観とフリー参観日の設定 ・「山二ふれあい広場」への保護者、地域住民の招待 ・「学校だより」の地区民への配布 ・学校評価結果の保護者、地域への公開 ・ホームページによる学校情報の公開 	<p>○多くの保護者の参加がある。PTA総会への会員の参加率は80%を超える。</p> <p>○「山二ふれあい広場」では、たくさんの保護者の協力を得て実施でき、学校や子ども様子の様子を知らせてもらう良い機会となった。</p> <p>▲地域の学校としてさらに多くの住民が参</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				画できる学校行事を開催することが求められる。 □フリー参観日を3日間に設定し、より多くの保護者に学校の様子を見てもらえるようにする。
	2 説明責任の状況	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」の定期的発行 ・学校へ対するクレーム等には、迅速に、対面での対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を意識した「学校だより」を発行し、学校運営について理解をもらうようにしている。 ○学校への要望については、迅速に、誠実に対応できている。 □職員の対応について研修を実施する。 □職員間の情報の共有化をする。
⑧ 資質向上	1 現職教育	<u>○A</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究として「国語科」を取り上げ、国語の授業のあり方と学力の向上を図る。 ・学力向上サポートプログラムにより授業力の向上を目指す。 ・外部講師による研修会や講話を積極手に実施し、教職員の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の実践により国語の授業の質を向上させることができた。 ○3回の学力向上サポートプログラムにより、国語科の授業力の向上を図ることができた。 ▲校内研修の時間の確保が難しく、十分にできないことがあった。 □週時程の工夫により、校内研修の時間確保を行う。 □外部講師を積極的に活用（3回の指導主事訪問の実施）し、教職員の資質向上を図る。
	2 各種研修への参加	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の公開研究会等に積極的に参加し、先進校の取り組み視察 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋田県学力向上フォーラムへの参加により、学力状況調査1位の秋田県の取り組みを知ることができた。 ▲優れた秋田県の取り組みをいかに自校化

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				<p>していくか課題である。</p> <p>□学習規律を見直し，秋田県の取り組みの良いところを取り入れていく。</p>
⑨ 特色ある 教育活動	1 体験活動を重視した学習計画	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間における地域の学習 特産品である「いちご」「りんご」等の学習 地域の伝統である民謡の学習 	<p>○地元のイチゴ農家，リンゴ農家での地域の特産物の学習を通して，地域を知り，愛する児童を育てることができた。</p> <p>▲地域学習の年間計画を整備することが必要である。</p> <p>□生涯学習課と連携した協働教育を積極的に取り入れていく。</p>
	2 たてわり活動を生かした活動	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいタイム」を設定し，年間を通して5，6年生をリーダーとしたたてわり活動を実施。 P T Aと協力し，「山二ふれあい広場」をたてわり班を生かして実施。 	<p>○たてわり活動により，6年生のリーダー性の伸長を図ることができた。</p> <p>○「山二ふれあい広場」では，保護者，地域との連帯感を味わうことができた。</p> <p>▲より充実したたてわり活動のための年間計画の見直しが必要である。</p> <p>□たてわり活動の実施回数，内容等の実績を記録し，よりよい内容を計画する。</p>
	3 町の復興を意識した取組	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 「町の復興に向けて何かをしたい」という願いからスタートした，6年生の「山二小輪太鼓」への取り組み。(平成24年度より) 6年生の総合的な学習の時間「街をきれいにしよう」での，美化活動。 	<p>○「震災後の町を元気づけたい」という動機による取り組みなので，非常に意欲が高く，新しい山二小の伝統になっている。</p> <p>○5年生以下の児童にとって，「6年生になったら太鼓」という目標になっている。</p>

－ 坂元中学校 －

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
①学校教育目標	〈知〉 (自立) 目的を持って自ら学び自立する生徒	A <u>ⓑ</u> C D	(1) 学力向上を図る授業の工夫改善 ・全職員による授業研究会を開き、個々の指導力の向上を図る。 (2) 基礎学力の確実な定着 ・部活動中止時の放課後学習支援Sタイムの実施 ・小テストの実施 (3) 家庭学習の習慣化 ・学習の手引きを利用して家庭学習の取り組み方を定着させる。 ・自主学習ノートの点検を行う。	○表現力・思考力・判断力を高める授業研究会を多くの教科で実施できた。 ▲授業研究が行われた当日に授業検討会を設けることが難しかった。 □授業のポイントを明記した参観カードを利用して多くの意見を取りまとめられるようにする。 ○まなびの森との連携によるSタイムの成果が大きかった。
	〈徳〉 (奉仕) 思いやりと奉仕の心を持った、心豊かな生徒	A <u>ⓑ</u> C D	(1) 道徳教育の充実 ・道徳の授業の充実として価値項目を意識した発問の工夫、一人ひとりの考えをまとめるワークシートの工夫を行う。 ・モーニングGOOD！（朝読書）の活用し、感想をまとめさせる。 (2) 生徒自身によるボランティア活動の推進 ・仮設住宅の清掃活動など生徒自ら取り組むボランティア活動を推進する。	○道徳の年間計画に沿って道徳の授業を実施することができた。 □道徳の資料の有効活用を推進することで更に道徳の授業を充実させていく。 ▲総合的な学習の時間の中で仮設住宅の清掃活動を行ったが生徒の自主的な活動までには至らなかった。 □生徒会執行部を中心に人の為にできることを考えさせ、ボランティア活動につなげていく。
	〈体〉 (健康) 心身ともに健康でたくましい生徒	A <u>ⓑ</u> C D	(1) 安全に関する意識の向上 ・外部講師による薬物乱用、口腔講話、不審者対応安全教室を開催する。 ・委員会活動を通してポスター等の作成・掲示させる。	○外部講師による各安全教室等の実施後に行った感想やアンケートに生徒の意識向上が読み取れた。 ○朝の健康観察等を行うことで生徒自身の健康への関心を高めた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			(2) 自身の健康に対する関心を高める。 ・健康ファイル（学期初めの生徒全員検温の実施）の活用と昼ブラッシングの励行	
② 学力向上	1 基礎学力の定着	A B <u>○</u> C D	(1) 個に応じた学習指導 ・国語科・数学科・英語科での全学年T T指導を行い全国学力検査等の結果で県平均以上を目標とする。 (2) 家庭学習の習慣化を図るための支援 ・自主学習ノートの活用・教員によるノート点検 (3) 放課後、長期休業中の学習支援の充実（Sタイム） ・全校生徒対象に放課後（部活なし）等に学習会を開く。 ・部活動引退後の3年生の放課後の学習支援（まなびの森）	○全国学力検査等の結果では国語は県平均1ポイント高く成果が見られた。 ▲数学・英語は県平均より低い領域があった。 □計算・英単語などの小テストを随時行い、数学・英語の基礎学力を定着させると共に個に応じた指導や授業改善の工夫を更に行う必要である。
	2 活用する力の伸長	A <u>○</u> B C D	(1) 表現を育む集団づくりを取り入れた授業づくり ・「伝え合う活動」を取り入れた授業を毎時間積み重ねて行う。 (2) 全職員による研究授業の充実 ・CRT, QUテスト等の結果活用して生徒の実態を捉え、授業づくりを行う。 ・校内研究に即したねらいをポイントにした授業づくり	○小集団で「書く」「話す」ことを繰り返す行うことで積極的に話し合い活動に参加し表現力を身に付けてきている。 ▲主体的に課題解決のための思考力、判断力を身に付けさせたい。 □生徒が自信を持って自分の考えを表現できるように、基礎学力の定着を十分に図り、効果的な「伝え合う活動＝2人以上の話し合い活動」の場の設定をした授業づくりを行い、教師の指導力向上のための授業研究会を充実させる。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	3 主体的・体験的学習の展開	A <u>ⓑ</u> C D	<p>(1)総合的な学習の時間「おもだか」の計画と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭（学年発表で一人ひとりの役割を自覚し、アイデアを出し合いながら制作させていく） ・1年「仮設住宅ボランティア」「老人会とのグランドゴルフ交流会」 ・2年職場体験学習・3年東京自主研修「話し方教室」等の取組 	<p>○体験的な学習を通して「人とかかわることの大切さ」に気づかせることができた。</p> <p>▲生徒自身が自ら考え活動する場が少なかった。</p> <p>□志教育，道徳，各教科との関連を図りながら主体的に活動する力を身に付けさせたい。</p>
③心の教育	1 心のケアを含む心の教育	<u>Ⓐ</u> B C D	<p>(1)個に応じた心のケアの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二者・三者面談，チャンス相談の活用 ・カウンセラーとの連携を密にとりながら対応する。 <p>(2)自己有用感を高める行事や学級の集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での発表の場を全員に与える。 ・学級で全ての生徒に役割を与える 	<p>○震災後期の子どもに対する研修会に講師を呼んで行き，震災後の心のケアの対応に生かすことができた。</p> <p>○行事等で多くの生徒に活躍する場があり，自己有用感を実感できた。</p> <p>▲生徒の主体的な活動が少なかった。</p> <p>□生徒が主体的に活動できるように支援を工夫していく。</p>
	2 志教育の推進	A <u>ⓑ</u> C D	<p>(1)自らの在り方や生き方を追究する意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して夢や目標を持たせるために志シートを活用する。 ・みやぎの先人集を活用し，地域の発展に貢献した先駆者の思いを学ぶ。 <p>(2)集団や社会に貢献しようとする態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での役割を「はたす」力を学級の係等で身に付ける。 ・地域における役割を考えさせ，地域に 	<p>○総合的な学習の時間の体験学習を通して，将来への夢を持つことができ，志シートに記入することで目標に対する意欲等が育ってきている。</p> <p>○道徳の時間で，地域の先駆者の思いを理解することができた。</p> <p>▲仮設ボランティアや老人会との交流を実施し，生徒の目を地域に向けることができたが，更に生徒自身が考えすすめる地域への貢献活動をさせていきたい。</p> <p>□生徒自身が考え実行できるような計画を</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			役立つ活動をさせる。	立案する。
④ 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A <u>○B</u> C D	(1)部活動における主体的な朝練習の実施 ・生徒自ら練習メニューを考え短時間で効果的な練習を行う。 (2)全校生徒参加による駅伝大会の練習 ・全校体制による夏休み駅伝練習 (3)部活動強化期間の設定 ・中総体・新人大会に向けて練習時間を確保し、体力づくりと共に技術等を伸ばす。	○朝の自主練習により技術の向上以上に心身の鍛錬に効果があった。 ▲休日の大会や練習試合等で週明けに体調を崩す生徒怪我をする生徒が見られた。 □練習試合等の計画を無理のないように設定するとともに基礎トレーニング講習会を開き、けがのない体づくりを奨励していく。
	2 基本的な生活習慣の育成	<u>○A</u> B C D	(1)生徒会による朝のあいさつ運動や身だしなみチェックの実施の強化 (2)学期ごとの清掃強化週間の設定 (3)チャイム着席の徹底	○生徒の自主的な活動によりあいさつや身だしなみに対する意識が高まってきた。 ○時間通りに自ら行動できるようになっている。
⑤ 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B <u>○C</u> D	(1)危機管理体制の確立 ・危機管理マニュアルを再確認し、より実態に沿ったものにしていく。 ・避難所の運営マニュアルの作成を行う。 ・施設点検を月1回行う。	▲避難所の運営マニュアルの作成をすることができなかった □町の避難所マニュアルの自校化を図る。 ▲月1回の点検は行ったが、点検表の確認があいまいになり補修が計画的に行われなかった。 □点検カードのチェック体制を確立させる。
	2 大地震の経験を生かした防災教育	A B <u>○C</u> D	(1)防災訓練の見直し ・年2回の防災訓練を見直すと共に地域との連携を取り入れた訓練を計画する。 (2)防災教育を効果的に取り入れるための	▲地域と共に行う防災訓練を実施することができなかった。 ▲地域における中学生の役割を意識させた防災教育の計画が必要である。 □町・各地区の担当者と連携をとりながら

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
			教育課程の作成 ・年間行事の中に防災教育に関わる活動を取り入れる。	防災訓練の計画を練り、実施していく。 □総合的な学習の時間担当と防災主任が中心となり、生徒自身が考え、学ぶ防災教育を計画する。
⑥ いじめ不登校	1 いじめ防止対策	A <u>○B</u> C D	(1)いじめの把握 ・学校生活アンケートの実施と結果をもとにした生徒対応 ・定期的な教育相談を通じた生徒の実態把握 (2)いじめ防止 ・全教職員によるいじめ防止教育の研修会の実施	○生徒とかかわる時間を確保し、生徒の心の様子を確認することができた。 ○学級活動や道徳の時間を中心に、いじめ防止教育の実践ができた。 □いじめ防止対策方針の作成を進める。
	2 不登校対策	A <u>○B</u> C D	(1)登校支援の工夫 ・学級担任、学年担当教員、スクールカウンセラーを中心とする支援体制の確立 (2)不登校等の未然防止 ・家庭訪問や教育相談における生徒の実態把握をし、不適應を起こしている生徒への対応を保護者と協力して行う。	○不登校生徒には状況を把握し、状況にあった対応をしている。 □今後の支援について、ケース会議を開いて対応していく。 ○中学1年生の中学校生活への不安による不適應を早期に気づき、相談等により、不安を取りのぞくことができた。
⑦ 地域連携	1 開かれた学校づくり	A <u>○B</u> C D	(1)地域との連携 ・総合的な学習の時間における地域との協働教育の実施と地域住民への文化祭の参観勧誘の呼びかけ ・フリー参観ウィークの実施	○生徒が作成したチラシを学区内の各家庭に生徒達で配付し当日地域の方々が参観していただいた。 ▲2学期末に実施したが参観者が少なかった。 □1学期にフリー参観ウィークを計画し、学校だより等で告知を重ねて行う。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	2 説明責任の状況	A <u>○B</u> C D	(1)説明の方法 ・各種たよりを定期的に発行すると共にホームページを活用する。 ・学校づくりアンケートや国・県学力状況検査等の結果及び考察のまとめを家庭に配付する。	○学校だよりを各行政区の回覧用に月1回発行し、教育活動の周知を図り、地域の教育力向上の一助とすることができた。 ▲ホームページでは、校長室より・学校だよりを更新したが、その他は更新できなかった。 □情報化推進リーダーを中心に定期的に更新する。
⑧ 資質向上	1 現職教育	A <u>○B</u> C D	(1)校内研究の充実 ・表現力・思考力・判断力を高める授業づくりをめざし、全職員による授業研究会を開いて、実践を通して研究を進めていく。 (2)教師の資質向上のための校内研修の計画・実施 ・生徒の実態・課題にあった校内研修会を計画し実施する。	▲授業研究会は実施できたが、検討会を設定できなかった。 □授業を参観した教員から参観の視点に沿った参観カードを集約し、検討会を進めていく。 ○エピペン（食物アレルギー対策）講習会、震災後期の子どもこのころのケア研修会を行い、教師個々の研修を深めることができ、日々の実践に生かすことができた。
	2 専門職としての資質向上	A <u>○B</u> C D	(1)各種研修会への参加 ・教科等の指導力を高めるための研修会や公開研究会等に積極的に参加する。	○自分の資質向上を目指し、積極的に参加した職員が多かった。 □経験の浅い教職員に対して、必要な研修を参加しやすいように校内体制を組んでいく。
⑨ 特色ある教育活動	1 キャリア教育の充実	A <u>○B</u> C D	(1)自分らしい生き方の実現 ・生徒の興味・関心に対応した地域での職場体験学習を実施する。（協働教育コーディネーターとの連携） ・外部団体を活用したキャリアセミナーを実施する。	○地域の職場での体験により、働くことを身近に感じ、将来像を描くことができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
2	地域と共に歩む協働教育の推進	<u>Ⓐ B C D</u>	(1)協働教育の推進 ・総合的な学習の時間における地域との協働（1年仮設ボランティア・1年老人会との交流・2年職場体験） ・外部講師を活用した協働教育の強化（3年話し方教室等）	○地域との交流を深める実践で、地域の良さを再認識するとともに、社会との関わりの中で自己実現を果たしていく意識を持たせることができた。 ▲年間行事計画に入れてなかった活動（老人会との交流）があった。 □総合的な学習の時間の年間計画に明記して実施する。

－ 山下中学校 －

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
①学校教育目標	〈知〉 真剣な学習活動が行われる学校	<u>A Ⓑ C D</u>	・数学と英語での少人数指導・TT指導 ・ステップアップノートを活用した家庭学習の充実	○少人数指導では、習熟度別編成で生徒の意欲が低下したので、等質編成に変更し意欲の向上を図ることができた。 ○家庭学習の習慣化が図られた。 ▲家庭学習の内容をもっと充実させていきたい。 □家庭学習のノートへのコメントを工夫し、意欲を高めていく。
	〈徳〉 明るく秩序のある学校 集団としてのきまりが身に付く学校	<u>A Ⓑ C D</u>	・自己存在感を育てる支援の工夫 ・Q-Uを活用した学級づくり ・震災支援への感謝の気持ちを表す活動の展開	▲自己肯定感を持つ生徒の割合が低い。 □生徒が活躍する場面を意図的に設定し、褒めることを多くして、自信を持たせたい。 ○Q-Uから生徒の意識を捉え、学級づくりに生かすことができた。 ○「命の碑」の建立をとおして、支援をいただいた方々への感謝の気持ちを再確認することができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	〈体〉 教師と生徒と一緒に汗を流す学校	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業での運動量の確保 ・部活動での基礎体力づくりの充実 ・全職員が生徒と共に行う清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における運動量の確保ができた。 ○部活動での基礎体力づくりの取組がほとんどの部で充実してきた。 ○清掃指導についての教職員の意識が高まった。
② 学力向上	1 基礎学力の定着	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップノートを活用した家庭学習の充実 ・少人数指導やT T指導の実践 ・学習塾「まなびの森」による課外指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の習慣化が進んだ。 ▲ステップアップノートの内容がマンネリ化している生徒が多数おり、内容を充実させる指導を工夫したい。 □ステップアップノートの内容が良い生徒を表彰し、意欲を高める。 □ステップアップノートへのコメントを充実させ、個別に意欲を高めていく。 ○指導形態の工夫を行い、特に理解に時間がかかる生徒の指導で成果があった。 ○「まなびの森」による課外指導に、意欲的に参加する生徒が増えた。
	2 活用する力の伸長	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を意識した授業の構築 ・考えを深めるためのグループ学習やペア学習の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでの討議などを取り入れた授業を各教科で実践できた。 ▲問題の読み取りが充分でない生徒がまだまだ多い。 □考えさせる授業や、生徒同士が考えを深め合える授業の展開を工夫していく。
	3 主体的・体験的学習の展開	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する機会を意識的に取り入れた指導の継続 ・職場体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表の仕方や、考えをまとめる手立てを指導することができた。 ○地域の方との交流を通して、自分の将来や生き方を考える機会となった。 ○地域の方々に学校について理解していた

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				○：成果 ▲：課題 □：対応策 だく機会となった。
③ 心の教育	1 心のケアを含む心の教育	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査やアンケートによる問題の早期発見 ・支援員，SCとの連携強化 ・震災を振り返る活動 	<p>○月1回のいじめアンケートで早期発見に努め，丁寧に対応することができた。</p> <p>○支援員やSCとの連携や，教職員間の情報の共有ができた。</p> <p>▲震災を振り返る作文を書かせた。まだまだ，心に傷をもっている生徒が多いことが分かった。</p> <p>□少しずつ震災に向き合えるように，丁寧に指導していく。</p>
	2 志教育の推進	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の実施 ・地域でのボランティア活動 	<p>○地域での職場体験により，自分の将来や生き方について考えることができるようになった。</p> <p>○地域からの要請でボランティアをさせていただくことができた。</p> <p>▲生徒からの発信がまだまだ足りない。</p> <p>□生徒会を中心に生徒の思いを発信していく活動を展開していく。</p>
④ 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A <u>○B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業での運動量の確保 ・部活動での基礎体力づくりの充実 	<p>○職員が基礎体力の重要性を認識し，全校体制で取り組むことができた。</p> <p>○部活動での基礎体力づくりの取組がほとんどの部で充実してきた。</p>
	2 基本的な生活習慣の育成	A B <u>○C</u> D	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導内容の共通理解・共通行動 ・全職員による下校指導の実施 ・穏やかな一日のスタートを切る朝読書 ・家庭との連携 	<p>▲生徒指導について，職員の意識の差があり，指導に一貫性を欠く所があった。</p> <p>□教職員一丸となって指導に当たれるよう，意識の統一と，職員間の声掛けを行っていく。</p> <p>▲朝読書の時間に宿題をする生徒がいるな</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
				<p>ど、徹底できなかった。</p> <p>□朝読書の意義を再確認し、とにかく読書をすることを徹底していく。</p> <p>○保護者との連携を図り、効果を上げることができた。</p> <p>▲保護者の協力が得られない家庭もあり、十分な成果を上げられないこともあった。</p> <p>□粘り強く指導を続けながら、家庭の協力を得るようお願いを続けていく。</p>
⑤ 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携構築 ・防災倉庫の維持管理 ・避難所開設訓練の実施 	<p>○地域の会議の傍聴をさせていただき、地域の動きを確認することができた。</p> <p>○定期的に防災倉庫の点検を行った。</p> <p>▲避難所開設訓練は実施できなかった。</p> <p>□町の防災訓練と連携して避難所開設訓練ができるように働きかけていく。</p>
	2 大地震の経験を生かした防災教育	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な避難・防災訓練の実施 ・震災を振り返る活動の実施 	<p>○授業中、休み時間、放課後等に避難訓練を行い、問題点を把握することができた。</p> <p>▲震災を振り返る作文を書かせた。まだまだ、心に傷をもっている生徒が多いことが分かった。</p> <p>□少しずつ震災に向き合えるように、丁寧に指導していく。</p>
⑥ い じ め 不 登 校	1 いじめ防止対策	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のアンケート実施 ・Q-Uを生かした学級づくり ・教職員の情報共有の強化 	<p>○アンケートで早期発見に努め、丁寧に対応することができた。</p> <p>○Q-Uの結果を生かし個別に対応できた。</p> <p>○教職員の情報交換を行うことができた。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
	2 不登校対策	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早めの家庭訪問 ・ 別室での指導の充実 ・ チームとしての対応 ・ SCとの連携 	<p>▲一人一人の状況に合わせて対応を考えて実践しているが、登校に結びつかない生徒がいる。</p> <p>□家庭との連携を取りながら、学年担当を中心にチームとしての指導を継続していく。</p>
⑦ 地域 連携	1 開かれた学校づくり	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種たよりの発行目標回数を設定 ・ ホームページの定期的な更新 	<p>○各種たよりを積極的に発行し、目標回数を超えることができた。</p> <p>○ホームページを適宜更新した。</p>
	2 説明責任の状況	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域の方からの相談や苦情への丁寧な対応 ・ 生徒・保護者アンケートの実施、結果公表 	<p>○保護者や地域の方の訴えを丁寧に聞き取り、丁寧に対応することができた。</p> <p>○教員、生徒、保護者の意識の違いがわかった。</p>
⑧ 資質 向上	1 現職教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q-Uについての研修 ・ 外部講師の活用 ・ 研修会の伝達講習 	<p>○Q-Uの活用が促進された。</p> <p>○外部講師を活用した研修は、いい刺激を受けることができた。</p> <p>○職員会議の中での短い伝達講習になったが、職員間で研修の内容を共有することができた。</p>
	2 校内研修	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間一人1回以上の授業研究 ・ 教科の特性を生かした授業の工夫 	<p>○一人1回の授業研究を行うことができた。</p> <p>▲教科ごとの研究が中心になり、全体としての方向性が見えづらかった。</p> <p>□授業を見る視点を明確にして研究授業を行っていく。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	○：成果 ▲：課題 □：対応策
⑨ 特色ある 教育活動	1 特別支援学校との交流	A <u>ⓑ</u> C D	・居住地校学習推進事業での生徒による交流会の計画立案	○学年全体との交流では、生徒たちが企画を考えるなど、本校・支援学校双方の生徒にとって有意義な交流を行うことができた。
	2 地域でのボランティア活動	A <u>ⓑ</u> C D	・ボランティア活動への積極的な参加 ・ボランティア担当の校務分掌への位置づけ ・生徒主体の活動の構築	○生徒・職員共に意欲的に参加することができた。 ○ボランティア部の顧問として位置付けた。 ▲日常的に継続しているのは、生徒会役員のみ活動であった。 □生徒会から広く呼びかけ、活動の輪を広げていく。
	3 学習塾との連携	A <u>ⓑ</u> C D	・放課後や長期休業中の課外指導	○希望者の参加としたことで、参加者の意識が高く充実した学習会になった。そのため、回を追うごとに参加希望者が増えていった。

(3) 学校給食の概要について

① 給食回数

小学校 174回～179回

中学校 174回～177回

② 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食 週1回（水） 麵給食併用

③ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品等

保護者負担 小学校 278円（児童1人 1食あたり）

中学校 319円（生徒1人 1食あたり）

④ 食材の放射性物質検査について

食品放射能測定システムによるセシウム134・137の検査

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査を実施

平成26年度は、延べ80回検査を実施し、検査結果は、いずれも厚生労働省が示す放射性セシウムの新基準値を下回るか不検出でした。

⑤ 米飯・パン業者

米飯は、加賀屋（名取市）、パンは、ささもり菓子舗（角田市）

給食の単価については、学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度より小学校は8円、中学校は9円増額しました。

また、食物アレルギー対応の必要な児童生徒も9名おり、いずれも保護者と学校とで面談等を実施し、安全・安心な給食の提供に努めてきています。

4 生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

生涯学習分野においては、教育方針を基に社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点政策として、地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。中でも、より一層の協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進しました。

また、社会教育施設の復旧が概ね完了したことに加え、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・体育施設の維持管理・利用調整等を行ない、活動の支援を行いました。

① 家庭教育の活性化

協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、そして行政が一体となって家庭教育の活性化に努めました。

ア. 家庭教育事業

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	子育てひろば 「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者 対象)	7/17 ～ 2/12	8	親子23組 48人 (延べ 97組 202人)	協力：家庭教育支援 チーム「夢ふうせん」
2	家庭教育・幼児学級 (来春就学予定の幼児 と保護者対象) ※ 4小学校で実施	6/11 ～ 2/18	12	親子64組 128人 (延べ 186組 368人)	協力：家庭教育支援 チーム「夢ふうせん」 各小学校

イ. 保育所及び幼稚園における家庭教育の推進事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	7/4	1	120人	鑑賞者：園児、保護 者、なかよし会会員
2	親子で遊ぶ楽しい手遊び (南保育所)	1/18	1	78人	内訳：園児 28人 保護者50人
3	親子で遊ぶ楽しい手遊び (北保育所)	2/7	1	116人	内訳：園児 58人 保護者58人

ウ. 家庭教育支援者の養成

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てサポーター・ リーダーネットワーク 研修会	5/2 ・ 2/20	2	10人	主催：県教育委員会
2	子育てサポーター リーダー養成講座	5/27 ～ 11/26	4	5人	主催：県教育委員会
3	子育てサポーター 養成講座	7/1 ～ 10/28	3	2人	主催：県教育委員会
4	家庭教育支援チーム 「夢ふうせん」 スタッフ研修会	10/21	1	9人	石巻市子ども支援セ ンターの取り組みを 視察
5	子育てサポーター・ サポーターリーダー フォローアップ研修会	12/10	1	6人	主催：県教育委員会

エ. 応急社会教育施設「内手館」の活用

「内手館」を活動の場として提供し、併せて団体の運営補助を行いました。

No.	団体名	内容	活動日
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日
2	家庭教育支援チーム「夢ふうせん」	家庭教育支援	毎週火曜日

② 青少年学習活動の支援

協働教育の一環として、青少年の学習、社会活動への参加を促進するため、活動場所の提供や指導者の確保、情報の収集・提供等を軸とした学習環境の充実に努めました。

また、各種イベント、ボランティア、まちづくり等への積極的な関与を促し、青少年関係団体の育成や活動への支援、また、活動・発表の場の提供を行いました。

ア. 生涯学習指導者養成事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	インリーダー講習会 (小学5年生対象)	2/21 ~22	1	11人	会場：宮城県蔵王自然の家 協力：山元ボランティアサークル虹
2	ジュニア・リーダー 初級研修会 (中学2・3年生対象)	3/25 ~26	1	5人	会場：中央公民館・ 勤労青少年ホーム
3	学校開放 「やまもと楽校」	11/15 ~16	1	80人	会場：坂元中学校 協力：町内学校教職員13人
4	成年活動活性化事業 「勤労ホームロビーミニコンサート」	12/12 ~ 2/14	3	(延べ) 100人	会場：勤労青少年ホーム

イ. 補助事業関係

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	みやまっこクラブ (山下小・山一小・山二小対象)	5/12 ~ 3/9	28	28人 (延べ 581人)	会場：山下第一小学校 スタッフ数8人 (延べ155人)
2	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/19 ~ 3/13	35	29人 (延べ 664人)	会場：坂元小学校・ 坂元公民館 スタッフ数12人 (延べ227人)

ウ. 主催事業

- ・成人式 平成27年1月10日 参加者数(新成人) 129人
- ・実行委員会 実行委員14人 委員会の開催7回

新成人有志が実行委員会を組織し、自らアトラクションの企画・運営を行った。

③ 地域と世代間交流・学習活動と発表の場の提供

子どもから高齢者まで、潤いと生きがいのある生活を送ることができるよう、健康・教養・趣味等の学習ニーズに対応できる学習・実践・発表機会の場の提供を行ない、地域間や世代間交流の推進と支援に努めました。

ア. 共催事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子どもも大人もみんな で遊び隊～音楽と謎解 きで遊び隊～	5/5	1	500人	会場：少年の森 主催：子どもも大人 もみんなで遊び隊
2	子どもも大人もみんな で遊び隊	8/4	1	1,000人	会場：中央公民館 主催：子どもも大人 もみんなで遊び隊

イ. 高齢者向け実施事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	いきいきシニアライフ (山下地区60歳以上)	10/21 ～ 1/16	4	15人 (延べ 46人)	主催：中央公民館
2	いきいきシニアライフ (坂元地区60歳以上)	10/24 ～ 1/16	4	16人 (延べ 47人)	主催：中央公民館

④ コミュニティ振興関係事業

コミュニティ関係団体及び事業参加者に対し補助金・負担金の交付を行いました。また、関係団体の活動を支援し、活性化に努めました。

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金の交付

No.	団体名称	金額(円)
1	すばらしいやまもとを創る協議会	70,000
2	山元町国際交流協会	100,000

イ. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額(円)
1	公益財団法人宮城県国際化協会	11,201

ウ. 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する負担金の助成

No.	事業名	金額(円)	備考
1	第18回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会	25,000	@5,000×5人 会場:柴田町

⑤ 学校教育支援 ※生涯学習課が関わった事業のみを掲載

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、指導者や安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図り推進しました。

No.	学校名	学年	期間	内容	備考
1	山下小	1・2	4/11	交通安全教室安全見守り	ボランティア5人
		4~6	5/12~	鼓笛金管バンド指導	指導者1人(年12回)
		2	6/25	学年P行事「勾玉作り」	ボランティア2人
		全	7/4~	読み聞かせボランティア	ボランティア1人(年20回)
		全	10/24	縦割り登山安全見守り	ボランティア6人
		2	11/14	町探検安全見守り	ボランティア8人
		全	11/19	持久走大会安全見守り	ボランティア6人
		3	2/3	いちごの学習講師	ボランティア2人
		5	2/9	「復興に向けた取組」講師	ボランティア6人
2	山一小	全	10/10	国際理解集会(講師派遣)	講師1団体(6人)
		3・4	1/22	福祉に関する授業	講師1団体
3	山二小	1・2	4/11	交通安全教室安全見守り	ボランティア5人
		全	6/11	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
		4	7/9~	りんごの学習講師	講師1人
		3	7/16	いちごの学習講師	講師1人
		4	9/3~	民謡指導	講師(年4回)
		4	9/27	学習発表会での発表	ボランティア2団体
		3・6	12/9	福祉に関する授業	講師1団体
4	坂元小	3	6/11	公民館見学	公民館職員2人
		全	6/17	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
		3	6/23~	りんごの学習指導	指導者1人(年4回)
		5	7/4~	いちごの学習指導	指導者1人(年4回)
		2	11/21	地域との交流	ボランティア1団体
		2	1/23	総合学習講師	講師1人
		1~4	2/24	国際理解授業	講師1団体(6人)

5	山下中	2	5/2・7	話し方教室	講師 1 人
		2	5/14 ～16	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協働教育コーディネーター 1 人
		全	5/21	情報モラル授業 (講師派遣)	講師 1 人
		1	10/29	浴衣の着付け教室	講師 1 団体
6	坂元中	2	9/12 ～14	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協働教育コーディネーター 1 人
		3	12/4～	話し方教室 (講師派遣)	講師 1 人 (年 3 回)

□ 協働教育推進に係る成果と今後の活動にむけて

ア. 家庭教育支援

- ・未就学児とその保護者を対象とした家庭教育講座や家庭教育学級幼児学級などの事業を数多く実施することができた。事業の実施をとおして、教育の出発点と言える家庭教育の重要性や、人と人とのコミュニケーションの大切さを理解していただくことができた。
- ・子育てサポーターとの連携による子育てに関する支援、または同年代の子どもを持つ保護者同士の関わり合いの場を設定したことにより、地域が一体となって子育てを支援していく土壌づくりにつながった。
- ・県や教育事務所主催の子育てサポーター養成講座を積極的に受講していただくことにより、サポーターとしてのスキルアップ、家庭教育支援の中心的役割を担う人材の育成につながった。

イ. 地域活動支援

- ・放課後子ども教室では、特技や趣味をお持ちの町内の方々に講師になっていただき、様々な体験活動を実施できた。講師をしていただいた方からは、「ぜひ来年も教えたい」という声が多く聞かれ、講師のスキルアップや生き甲斐作りにつながった。教えていただいた子どもたちのみならず地域の方々にも良い効果を与えている。
- ・ジュニアリーダーや親の世代の協力者に、子ども会の行事等で積極的に関わっていただいた。地域人材の積極的な活用を推進することができた。
- ・学校開放講座を先生方に協力をいただいて実施できた。当日は80人を超える方々に来校いただき、地域に開かれた学校をアピールすることができた。

ウ. 学校教育支援

- ・年度や学期の始めに、町内小中学校へ外部講師・支援ボランティア希望調査を実施し、学校や先生方の意向を事前に把握することで、迅速及び適切に人材の調整・派遣を行うことができた。
- ・読み聞かせボランティアの協力者を発掘し、町内4つの小学校で朝の読み聞かせ活動を開始できた。仮設住宅から通うボランティアもおり、仮設住まいの中での生活の潤いとなっている。
- ・協力いただいた方々に学校や子どもたちからお礼状を渡していただけるよう依頼した。協力した方々は子どもたちからのお礼の言葉に大変喜んでおり、そのことが学校と地域の距離を縮め、さらには、外部講師や支援ボランティアの意欲向上につながった。

エ. 今後の活動に向けて

- ・町内では様々な方が協働教育の推進に力を貸してくださっている一方で、同じ人物がたくさんの役割を担っているケースもある。また、協力いただいている方が高齢化しているなどの課題も見られる。そこで、協働教育のさらなる理解・啓発を図るための広報活動（チラシ配布、ホームページ作成等）に取り組みたい。
- ・協働教育に係る地域教育資源（人、もの、こと、場所）は、町内にまだまだ豊富にあると思われる。「地域の子どもは地域で育てる」ことを推進するために、地域とのつながり、学校とのつながり、家庭とのつながりとさらに密にしていきたい。
- ・学校が、学校教育支援のための外部講師や支援ボランティアを気軽に探し、依頼することができるように、地域教育資源一覧表の作成に取り組み、学校に配付できるようにしたい。

⑥ 社会教育関係団体の育成・支援

社会教育関係団体の育成と社会教育の推進、及び公民館の安全運営のため、各協議会に参加し情報交換等を行いました。また、各団体への自主的活動に向けた支援を行ない、社会教育の振興に努めました。

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金の交付

No.	団体名称	金額(円)
1	宮城県社会教育委員連絡協議会	10,000
2	仙台管内子ども会育成連絡協議会	10,000

イ. 公民館関係団体に対する負担金

No.	団体名称	金額(円)
1	亘理地区防災安全協会	6,000
2	宮城県公民館連絡協議会	5,400
3	全国公民館振興市町村長連盟	5,000

ウ. 社会教育関係団体等育成のための補助金の交付・事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額(円)	備考
1	なかよし会	13,000	
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	
5	山元町坂元地区高校生親の会	12,000	
6	山元町文化協会	266,000	
7	山元町老人クラブ連合会	309,000	
8	各単位老人クラブ（5団体）	242,500	@48,500

エ. 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額 (円)	備考
1	ジュニア・リーダー中級研修会	3,160	参加者1人
2	ジュニア・リーダー上級研修会	7,000	参加者2人

⑦ 生涯学習施設等の環境整備

就業機会の創出を目的として宮城県が実施する緊急雇用創出（震災等緊急雇用対応）事業補助金により、4人の臨時職員を雇用し、生涯学習課が所管する施設の草刈り作業や清掃作業、軽微な修繕等を行い、各施設の環境整備に努めました。

⑧ 教育施設の修繕工事等

震災の影響による社会教育施設の復旧工事等は平成25年度までに完了している。平成26年度は、より快適に利用できる施設にするために空調設備等を整備し、また、施設の管理運営上、利用者が安全に施設を利用できるよう小破部分の修繕等を行ない、環境の整備に努めました。

ア. 施設の修繕工事等

No.	工事名等	金額(円)
1	中央公民館空調設備整備工事（視聴覚室）	507,600
2	中央公民館空調設備整備工事（和室）	291,600
3	民俗資料館正面玄関タイル修繕工事	486,000
4	中央公民館耐震補強工事	916,920

(2) 生涯スポーツの推進

震災の影響により、所管する体育施設が被災し、また、応急仮設住宅の用地として緊急的に使用されていることから、以前のような社会体育の事業実施や関係団体への活動場所の提供、また、広域的な交流を目的とした大会等の実施や、各種大会等の開催のための会場の使用については、利用が難しい状況となっています。

しかし、スポーツに親しむ環境の整備が必要なことから、復旧を終えた施設の利用調整等を行うとともに、各種関係団体への育成や、仮設住宅の集会所を会場としたニュースポーツ体験事業等を実施し、スポーツの推進を行ないました。

① スポーツ活動の推進

町民の健康増進とスポーツの普及発展を図るため、スポーツ大会等の開催や、他機関が開催する大会へ参加しました。また、スポーツ推進員13名を委嘱し、地域住民等へ広くスポーツ活動の促進を図るとともに、機会を捉えてニュースポーツ等の体験会を開催するなどし、スポーツの普及に努めました。

また、スポーツ人口の拡大のため、スポーツ少年団を対象とした事業を実施し、生涯スポーツの基盤づくりに努めました。

ア. 事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ニュースポーツ体験会 (ラダーゲッター、輪投げ)	5/5	1	約500人	会場：少年の森
2	スポーツ少年団入団式 及びスポーツテスト	5/24	1	97人	会場：山下小学校校 庭及び体育館
3	ニュースポーツ 仮設住宅出前教室 (お茶っこサロン:8ヶ所)	6/26 ～ 2/23	15	(延べ) 165人	会場：各仮設住宅集 会所 指導者：スポーツ推 進委員
4	未来への道 1,000km 縦断リレー	7/31	1	15人	タスキ中継所：山一 小、役場、体育文化 センター
5	ニュースポーツ体験会 (パークゴルフ)	8/3	1	46人	会場：歴史民俗資料 館前芝生
6	宮城ヘルシー2014 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	8/24	1	23人 (※)	会場：宮城県総合運 動公園 主催：県・県教育委 員会ほか
7	スポーツ少年団 第31回ミニオリンピック	10/11	1	182人	会場：坂元中学校校 庭
8	ニュースポーツ体験会 (パークゴルフ)	11/25	1	78人	会場：歴史民俗資料 館前芝生
9	10,000人寒稽古 (剣道、柔道、空手道)	1/18	1	60人	会場：体育文化セン ター

(※) 山元町からの出場人数。種目毎の出場人数は、ペタンク6人、グラウンドゴルフ8人、家庭バレーボール9人。

②スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手(団体・個人)に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

賞賜金については、東京オリンピックが開催されること等によって、今後より一層のスポーツ振興を図ることが必要だと考えられることから、交付対象者や交付金額を見直し、より充実した制度とするため改正を行いました。(平成27年4月1日施行)

ア. スポーツ活動団体等に対する補助金の交付

No.	団体名称等	金額(円)	備考
1	山元町体育協会	1,246,000	13団体が加盟

2	各行政区 (地域スポーツ・レクリエーション 補助金)	40,000	10,000×4行政区
3	全国大会出場者 (全国大会出場補助金)	150,000	個人20(14人) 団体1(1団体)

イ. 「山元町スポーツ全国大会等出場賞賜金」の改正

・交付対象者の拡大

旧	⇒	新
全国大会等への上場者		全国大会等への上場者及び監督等

・交付対象者の明確化

旧	⇒	新
なし		個人：町内に住所を有する個人（修学等のために 転出した個人を含む） ----- 団体：町内に活動の本拠を有する団体

・交付金額の増額

	旧	⇒	新
個人	5,000円		世界大会：50,000円 ----- 国際大会：30,000円 ----- 全国大会：10,000円
団体	5,000円×人数 (上限50,000円)		変更なし

(3) 魅力ある地域文化の醸成

より豊かな地域社会を醸成するため、伝統文化の保存・継承、新しい地域文化の創造・発信、町民文化活動の育成への支援、伝統芸能保存団体などの育成、町民個人と文化芸能との出会いや文化活動に関わる人同士の交流の促進などに取り組んできました。

しかし、震災により、これまで培われてきた伝統文化を継承する地域コミュニティが分散したばかりでなく、津波により伝統道具や資材が流失するなど、伝統文化の保存・継承が危ぶまれる状況となりました。このような状況を踏まえ、震災後から行ってきた無形文化財保存団体等による情報交換会を「山元町無形文化財復興協議会」と位置付け、改めて情報交換を密にし、各支援団体等から補助を受けるなどして活動を再開させているところです。

また、町内には、縄文時代の北経塚遺跡や古墳時代から近世の的場遺跡・石垣遺跡といった埋蔵文化財をはじめとする多くの文化財が残されており、これらは山元町の歴史と文化の原点とも言えるものであることから、平成26年度においては合戦原遺跡や犬塚遺跡をはじめとした、開発等により影響を受けると考えられる遺跡については、法の規定に基づき、発掘を行い保存・記録に努めました。

① 芸術文化の振興

関係機関並びに関係団体と連携を図りながら各種事業を実施し、芸術文化に身近に親しむ機会を提供した。

ア. 芸術文化活動事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第1回展示まつり	6/21 ～22	1	380人	主催:山元町文化協会
2	宮城県巡回小劇場 「音楽:シルクロードア ンサンブル」 (山下中)	10/9	1	295人	主催:県教育委員会 共催:町教育委員会
3	文化芸術による子ども の育成事業(芸術家派遣 事業)「音楽劇:三匹の かわいいおおかみ」 (南保育所)	10/20	1	53人	文化庁委託事業(東 日本大震災復興支援 対応)
4	第38回町民文化祭	11/1 ～3	1	2,500人	主催:山元町文化協会
5	第18回文化推進事業 「ロゴス腹話術山元公演」	11/2	1	200人	主催:山元町文化協会
6	文化芸術による子ども の育成事業(巡回公演事 業)「オペラ:カルメン」 (山一小)	11/11	2	145人	文化庁委託事業 事前ワークショップ 9/16実施

② 民俗芸能団体の育成

町内の伝統芸能保存団体の情報交換会(山元町無形文化財復興協議会)を実施するとともに、構成団体に補助金の交付を行ない、伝統文化の育成・保存を図りながら、これまで通りの活動ができるように支援を行ないました。

ア. 伝統文化保存団体等の育成のための補助金の交付

No.	団体名称	金額(円)
1	坂元おけさ保存会	10,000
2	坂元神楽保存会	10,000
3	山寺深山神楽保存会	10,000

③ 文化財の保存・保護

ア. 埋蔵文化財の保護(常磐自動車道関係)

常磐自動車道建設に伴い、山元ICから県境までの常磐自動車道施工路線内に所在する埋蔵文化財(遺跡)について、文化財保護法に基づき、平成22年度から

平成25年度まで現地発掘調査等を実施しました。

現地発掘調査は完了していますが、平成26年度は報告書作成のための出土遺物の整理・報告書の執筆等を引き続き行っており、日向遺跡及び中筋遺跡についての報告書を刊行しました。

イ. 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

東日本大震災に伴う防災集団移転等の復興事業や被災した個人の住宅再建等に伴い破壊される恐れのある埋蔵文化財について、復興交付金を活用し、その発掘・調査・記録を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査時期	備考
1	山下館跡	山下区	避難道路造成	本調査	3月～7月	
2	谷原遺跡	山寺区	個人住宅	確認調査	4月	
3	合戦原遺跡	高瀬区	防集移転 ・災公住宅	確認調査 本調査	7月 8月～	
4	合戦原B遺跡	合戦原区	個人住宅	確認調査	6月	
5	山寺館跡	山寺区	個人住宅	確認調査	7月	
6	室原遺跡	高瀬区	個人住宅	確認調査	8月	
7	石垣遺跡	山寺区	個人住宅	確認調査	9月	
8	北経塚遺跡	小平区	個人住宅 (物置建設)	確認調査	12月	

ウ. 埋蔵文化財の保護（その他の開発に係る事業）

民間事業者による開発や震災に起因しない個人の事業活動に伴い破壊される恐れのある埋蔵文化財について、その発掘・調査・記録を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査期間	調査面積
1	鷺足館跡	鷺足区	土砂採取	9月～1月	約3,000㎡
2	犬塚遺跡	中浜区	土砂採取	1月～	約2,300㎡
3	谷原遺跡	山寺区	個人工場	3月	約300㎡

エ. 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建て替えや、町の史跡である中島館跡・愛宕山館跡・大條氏御廟・茶室等の草刈り、枝払い等を実施し、環境整備に努めました。

④ 伝統文化の保存と展示・活用と活動場所の環境整備

歴史民俗資料館において、町内に残る貴重な文化遺産（歴史・美術・民俗的な資料や自然環境に関する資料）の収集保存・整理を行い、収蔵品は常設展により展示することに併せ、『収蔵資料展』、企画展『発掘された山元町ー常磐道関連遺跡 発掘調査成果展 1ー』を開催し、広く歴史文化の理解と振興に努めました。

また、JR常磐線関連工事に伴う熊の作遺跡（宮城県教育委員会が実施）発掘調査から出土した「大領」墨書土器の特別展示を12月～1月に行いました。

併せて、関係する資料館等との情報共有を図るため、協議会等に参画し、情報交換や運営を行ないました。

ア. 文化財行政団体への参画及び負担

No.	団体名称	金額(円)
1	宮城県博物館等連絡協議会	9,500
2	宮城県南資料館等連絡協議会	5,000
3	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

震災前には広く町民に活用されていた施設も、仮設住宅・仮設商工団地用地、震災関連の物資倉庫用地として使用されていることから、施設の運用には未だ多くの制約が残っております。

このような状況の中、貸出を行っている施設については、町民の生涯学習活動・スポーツ活動の拠点として震災前の賑わいを取り戻しつつあります。

また、7月に式典を実施し再オープンした牛橋公園内の各施設についても、利用者の利便性を確保するために利用調整等を行い、生涯体育・スポーツ振興に努めました。

① 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度利用者数(人)
1	中央公民館	45,228	46,241
2	勤労青少年ホーム	12,184	8,921
3	坂元公民館	14,541	15,405
4	深山山麓少年の森	21,177	14,402
5	歴史民俗資料館	1,819	1,582
6	ふるさと伝承館	5,237	6,035

② 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度利用者数(人)
1	体育文化センター	15,249	20,119
2	山寺深山グラウンド	3,936	4,991
3	真庭グラウンド	1,300	1,150

③ 牛橋公園施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度利用者数(人)
1	野球場	1,871	—
2	ゲートボール場	68	—
3	多目的広場	635	—
4	管理棟	364	—

利用状況については、震災後から各施設を避難所や物資保管庫等として使用していたこと、また、町民が生活の再建を優先せざるを得ない状況だったこともあり、震災後は利用人数が激減しました。

しかし、避難所が解消され、震災から年月を経たことにより、町民の学習意欲・活動意欲の高まり等も相まって、利用人数は震災前の水準に戻り、また、その水準を上回りつつあります。

中でも、深山山麓少年の森や勤労青少年ホームの利用人数が増加していることについては、少年の森山頂から復興が進む街並みが一望できること等により登山に伴う施設利用者等が増加したこと、勤労青少年ホームでのイベントによる利用人数が増加したこと等が主な要因と考えられます。

また、体育文化センターの利用人数が減少していることについては、平成25年度は坂元小学校体育館の改築工事のために授業で利用したことから一時的に増加したものであり、現在の利用状況は震災前の水準であります。

牛橋公園の利用状況については、町内のスポーツ愛好団体の利用はもとより、町外者による利用も多く、施設利用に伴い山元町を訪れる交流人口の増加にも寄与していると考えられます。

IV 点検評価に対する学識経験者の意見

○ はじめに

震災から5年目を迎え、山元町の教育は、「復旧・復興に向けた課題解決を最優先に捉えて取り組む」方針の下、一步一步確実に遂行されてきている。特に津波で被災した学校の併設解消に向けた取り組みは、具体的な段階に入っている。また、大地震の教訓や津波の恐ろしさは、時が過ぎるにつれ風化していく傾向にあるが、学校教育・社会教育の中で後世に残していく取り組みが行われている。

まだまだ震災の傷跡の残る中、その時その時の課題や問題をしっかりと把握し、対応策や企画実践を行っている関係各位に敬意を表する。

1 教育委員会の活動について

「教育委員会制度の改正」に伴う各種規則の見直しや改正の作業を進め、新制度に則った教育行政を行う体制を整えることができている。このことにより、より迅速な危機管理体制の構築等を図ることができるようになった。また、教育委員の教育機関訪問は、文書資料だけではなく実際の現場の状況を把握し、より適切な指導を行い、山元町の教育の進む道について考えることができると思われる。

2 教育関係経費決算の状況について

前年度と比較すると災害復旧費・文教施設決算額が、約3倍となっている。これは、山下第二小学校の建設費であり、今後これに伴い仕事量が増加することが考えられる。学校現場や建築業者との連絡調整を図りながら、より使いやすい施設を建築する必要がある。資材不足と金額の値上がり懸念されている中、適正な予算執行と建設工程の遅れのないよう指導監督を願う。

3 学校教育の充実について

(1) 山元町立山下第二小学校の再建に向けて

山下第二小学校の再建に向けた取り組みは、多くの意見を聞きながら順調に進んでいる。校舎等のハード面は、本年度着工することになるが、学校の教育目標及び教育課程等のソフト面についても進めていかなければならない。新校舎の特徴を生かした教育、大震災や津波の教訓を生かした防災教育等が求められることになる。新しく入る子供たちが、学校に来ることが楽しく、夢と希望が持てる教育を行ってほしい。また、地域も新市街地となるので、新しい町づくりと一体となった「地域と共に歩む学校」として、地域から愛される学校をめざしてほしい。

(2) 小学校及び中学校各項目評価について

- ① 学校教育は、知・徳・体のバランスの良い教育を進める事が求められている。教育目標に「体」の部分が明記されていない学校は、体力作りや健康面に関しての方針をしっかりと持ってほしい。
- ② 「主な具体的対策や方策」の欄に抽象的な文言を記入しているところがあるが、具体的にどのような事を行い、その結果どうだったか知りたい。項目に対して応えてないところが見られる。

- ③ 「基礎学力の定着」「活用する力」の部分で、数値の出ている学校と出ていない学校があるが、記入の方法について事前に共通理解をしておいた方がよい。
- ④ 「心の教育」や「いじめ不登校」に関しては、良い評価をしている学校が多い。震災による多くの問題に対して迅速に適切な対応を行い、全校体制で取り組んできた成果だと思われる。
- ⑤ 「志教育」に対しては良い評価が見られる。これは、各校で県の方針をしっかり受け止め、積極的に取り組み、工夫し、積み上げながら進めてきていたからだと思われる。
- ⑥ 「学力の向上」については、各校で現状分析を行い、指導法の工夫など多くの対策を取っている。しかし、なかなか効果が見えてきておらず、苦慮していることが伺える。「基礎学力の定着」ができていないと、その力を生かす「活用する力の伸長」も難しくなってくる。
- ⑦ 震災復興が途上であることから、なかなか家庭学習の習慣が身につかない子供たちもいると思うが、学習に対する意識向上に向けてPTAや家庭と協力して進めてほしい。
- ⑧ 中学校での「学力の向上」は、小学校での学力や学習意欲の定着の上に成り立つものであるから、小中の交流を図りながら連携して学力の向上に努めてほしい。
- ⑨ 学力の向上に関して効果を上げている県や学校を視察するなどして、良い方法を学び、活用していく事も必要と考える。
- ⑩ 「防災」に関して、まだ整備実施されていないところが見られるが、震災の経験を生かした防災教育、地域の中の学校として、地域と一体となった防災体制をつくってほしい。

(3) 学校給食の概要について

食の安全・安心に対しては、食材の放射性物質検査を行い安全な食材を使用すると共に、食物アレルギー対応も保護者と話し合いながら進めていることは評価できる。学校給食は、単に昼食を提供するだけではなく、大切な「食教育」の場でもある。学校教育計画の中にしっかり位置づけると共に、栄養士による学校訪問や担任による食に関する指導も進めてほしい。

4 生涯学習の推進について

(1) 生涯学習の充実

震災からの復旧・復興が進み、町民の生活も落ち着きを取り戻し、生涯学習に対する意欲・関心も高くなってきている。それに応えるために、より一層の協働教育の連携強化を図っていることは、住民のニーズにより合致した企画運営がなされていくことになる。

①家庭教育支援

現代は、祖父母と同居している家庭が少なくなっているため、子育てに対して悩んでいる保護者が多い。そのような中で、家庭教育事業や推進事業を行うことは、若い保護者の子育ての助けになっている。また、子育てサポーターの養成にも力を入れていることから、継続して地域で支援を続けることができる体制ができてきている。

②地域活動支援

子供の放課後の居場所づくりは、一緒に遊ぶ機会が少なくなった子供たちにとって、とても有意義な活動になっている。また、そのお世話をしている方にとっても生きがいになっていることは、まさに協働教育である。子供の数が少ない現状から、ジュニアリーダーになる子供も少ないと思われるが、子供の健全育成やリーダー育成のために力を注いでもらいたい。

③学校教育支援

学校のニーズに応えながら、外部講師や学習支援ボランティアを派遣できていることは素晴らしい。本の読み聞かせは、低学年でも高学年でも興味を持って聞いており、計画的に継続して行うことで効果があがり、本好きな子供を増やすことができる。

子供の教育は、学校だけで行う教育から、地域や保護者の支援をもらいながら、多くの人の力によって進めて行く教育に移行してきている。地域や保護者と共に歩む学校・開かれた学校として、外部の支援者を受け入れ進めてほしい。

(2) 生涯スポーツの推進

「全国大会等出場賞賜金」の改正を行い、対象者に監督等も加え、金額を増額したことは、一生懸命にスポーツに打ち込んでいる選手等の励みや経費の援助にもなる。町民の中から、全国大会等に出場する方が出ること、町の誇りでもあり、町民に勇気と感動を与えることとなり、町の活性化につながる。

(3) 魅力ある地域文化の醸成

- ① 地域の中で継承されてきた伝統文化は、後継者不足や高齢化などで廃れていく傾向がある。これまで同様、金銭的な支援を行うと共に発表の場を作ったり、広報で取り上げたりして自信を持って携えるよう支援を願いたい。また、後継者の育成は、どのような体制で行っていけば継続的に受け継がれていくのか考えてほしい。
- ② 文化活動は、町民の生きがいづくりと活性化に貢献している。町民が常に趣味等で生き生きと活動し、その成果を発表することは、体の健康と心の健康につながる。いつでも・何処でも・誰でもできるのが生涯学習であるから、今後とも文化の香りの漂う山元町をめざしてほしい。

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

牛橋公園内の各施設が利用できるようになったことは、町内だけではなく町外からもスポーツ愛好者が来町することとなる。また、深山山麓少年の森や勤労青少年ホームの利用人数も増加していることは喜ばしいことである。震災からの復旧・復興を推進し、できるだけ早く体育施設が利用できるようにしてほしい。また、町民の人口が減少していることを考えると、それぞれの施設が魅力を持ち、町外の人にも利用したり、交流を図ったりできるような工夫がほしい。

○ 終わりに

震災からの復旧・復興は、目に見えて進んでいる。学校教育においては山下第二

小学校の再建や子供たちの心のケア・学力向上に対する取り組み等が教育委員会や学校の並々ならぬ努力で対策が取られてきている。社会教育においても、施設関係が震災前の状態に近づき、利用者の増加が見られる。これまでの努力とご苦労に頭が下がる。

教育関係の業務は幅広く多岐に及んでいる。計画された施策が実りあるものになるためには、人員の確保が必要であり、他縣市町村からの派遣職員を含め人材の確保をお願いしたい。

これからは、次の5年先を見据えて、より創造的な復興をめざし、これからの山元町・宮城県を支え、リードする人材の育成に力を入れてほしい。

前仙台市立上杉山通小学校長 菅野 正彦

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。